

令和4年度弘前市総合計画審議会の進め方

1 弘前市総合計画の進行管理

弘前市総合計画を推進するため、「弘前市協働によるまちづくり基本条例」に基づき、市民との協働により毎年度、計画の達成度、執行状況の妥当性を評価し、見直しを行います。

「総合計画審議会」において市民等審議委員による計画の進捗状況の確認や、行政の自己評価等に基づく計画の見直し案への提言を行います。(弘前市総合計画より抜粋)

2 令和4年度の審議の進め方(方針)

- 1) 今年度の審議は、弘前市総合計画の二次評価(総合計画審議会による外部評価)及び弘前市総合計画後期基本計画素案の審議について、7回開催を予定(書面審議1回を含む)。
- 2) 弘前市総合計画の二次評価対象施策は、
[5リーディングプロジェクト + 事務局選定6施策 + 審議会希望2施策 = 13 施策/全 89 施策]の評価を予定。事務局選定施策の選定基準は、以下の①②のとおり。
 - ①市が推進する重要性が高い施策や課題解決の緊急性の高い施策
 - ②指標や達成度の進捗が良くない施策や一次評価(市の内部評価)で評価が低い施策
 審議会希望施策については、様式1(二次評価希望施策調査票)により抽出。また、リーディングプロジェクトを含む各施策等への意見については、様式2により意見照会を実施。
- 3) 各回の審議会資料、議事録を市ホームページにおいて公表。

3 スケジュール(案)

第1回	7月19日(火)15:00~17:00	市役所 市民防災館3階 防災会議室
	令和4年度審議会の進め方説明、リーディングプロジェクト一次評価審議	
第2回	7月26日(火)17:30~19:30	市役所 市民防災館3階 防災会議室
	8施策一次評価審議	
第3回	8月18日(木)~8月24日(水)	書面審議
	リーディングプロジェクト・8施策への意見に対する回答審議、二次評価案審議	
第4回	11月11日(金)13:30~15:30	市役所 市民防災館3階 防災会議室
	総合計画後期基本計画素案 リーディングプロジェクト・分野別政策①審議	
第5回	11月24日(木)17:30~19:30	市役所 市民防災館3階 防災会議室
	総合計画後期基本計画素案 分野別政策②審議	
第6回	1月25日(水)17:30~19:30	市役所 市民防災館3階 防災会議室
	総合計画後期基本計画素案審議	
第7回	2月2日(木)13:00~13:50	市役所 市民防災館3階 防災会議室
	総合計画後期基本計画最終案承認、答申	

令和4年度弘前市総合計画リーディングプロジェクト一次評価結果

プロジェクト名 (1) 誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり

総合評価 (ロジックモデル)

インパクト		アウトカム		アウトプット		インプット			
目指す姿	総合評価	指標・成果	個別評価	総合評価	取組内容	個別評価	事業	成果	
誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり	C	・冬期間における安心・快適な生活が送れている市民の割合 基準値 26.1% 実績値 15.3% 目標値 28.7%	△	O	<1 弘前ならではの快適なまちづくり> ・市民が快適に暮らせるように追従除雪等による機械除雪の効率化や生活道路の計画的な補修のほか、市民との協働によるごみの減量化・資源化などに取り組みます。	O	1) 除排雪事業	○	
							2) ごみ減量等市民運動推進事業	○	
							3) 生活道路等環境向上事業	○	
			4) 道路補修事業	○					
			5) 景観形成・魅力発信事業	○					
			・一人当たりの農林業生産額 基準値 1,892千円 実績値 未取得 目標値 1,956千円	—	O	<2 暮らしを支える産業施策の推進> ・農業の生産基盤を整備するために農道等の補修・改修を進めるとともに、りんご産業やライフ関連産業の振興対策に取り組みます。	O	6) 農作業省力化・効率化緊急対策事業	○
			7) 野菜等生産力強化事業	○					
			8) 農道等整備事業	○					
			・障がい者が安心して生活できるまちであると思う市民の割合 基準値 25.5% 実績値 24.3% 目標値 30.0%	△	O	<3 高齢者や障がい者等に寄り添った支援> ・高齢者の地域での見守り体制を強化するとともに、障がい者等が安心して生活できるような環境整備を進めます。	O	9) ライフ関連産業育成事業(ライフ・インベーション推進事業)	○
			10) 安心安全見守りネットワーク事業	○					
			11) ほのぼのコミュニティ21推進事業	○					
			【定性評価】 ・高齢者への間口対策とした除雪困難者支援では、地域から好評を頂いています。 ・農業従事者からは、中部広域農道等の改修により「農産物の荷傷み防止が図られた」と評価されています。 ・多様な人材活躍応援事業で実施している「資格取得チャレンジ支援事業」について、「非常に好評なので、求職者に対し活用を積極的に促してほしい」との声があります。	○				12) 弘前型基幹相談支援体制強化事業	○
								13) 就労移行支援事業	○
								14) 就労定着支援事業	○
								15) 就労継続支援事業	○
								16) 多様な人材活躍応援事業	○
								17) 地域共生社会実現サポート事業	◎

※アウトカムの総合評価 A:十分達成された。 B:概ね達成された。 C:あまり達成されなかった。 D:達成されなかった。

プロジェクト名 (1) 誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり

後期基本計画の策定に向けた前期基本計画(3か年分)の総括

後期基本計画策定のための市民ワークショップ及び各種団体からの意見、提案等

<1 弘前ならではの快適なまちづくり>
 ・後期基本計画策定のための高校生ワークショップでは、「雪かきでポイントが貯まる(バイトができる)マッチングアプリ『雪ポイ』の開発」について提案がありました。
 <3 高齢者や障がい者等に寄り添った支援>
 ・弘前市地域自立支援協議会からは、「障がい者雇用について、理解促進という部分も大事だが、もっと具体的な就労につながる仕組みづくりや仕掛けなど、雇

※参考 令和4年度の事中評価

<1 弘前ならではの快適なまちづくり>
 ・ピンポイント渋滞対策事業では、区画線の引き直しによる右折ポケット設置を2箇所、右折レーン設置の交差点改良を1箇所実施し渋滞緩和につなげます。
 <2 暮らしを支える産業施策の推進>
 ・津軽産ワインぶどう産地化促進事業では、水田跡地におけるワインぶどう栽培がスタートしたほか、今後は市内各所で計測中の気象データの活用による栽培適地の検討や地域おこし協力隊活動を通じた情報発信等により、新たな栽培候補者の掘り起こしを行います。
 <3 高齢者や障がい者等に寄り添った支援>
 ・弘前型基幹相談支援体制強化事業では、相談支援事業所を1か所追加して体制を強化しています。また、地域生活支援拠点等を構成する全ての事業所等が、有機的な連携を図ることができるよう運用状況の検証に取り組んでいます。

アウトカム

アウトプット

インプット

アウトカムの総括(3か年)

・2つのプロジェクト指標およびアウトプットの評価、インプットの成果を踏まえ、総合評価は「C」とします(「一人当たりの農林業生産額」は青森県が公表する数値であり、2022(令和4)年11月頃に公表予定)。
 ・プロジェクト指標「冬期間における安心・快適な生活が送れていることに満足している市民の割合」は3年間全て「△」の評価であり、特に今回(3年目)はポイントが大きく下がりました(23.4%⇒15.3%)。本指標については、例年4月～5月に実施している市民意識アンケートで取得していますが、調査年の降雪が多い、あるいは集中的に降雪があった場合には、満足度が低下しやすいものと考えられます。これまで市民や大学との協働による除排雪活動を強化してきたほか、2021(令和3)年度には4か所の既設雪置き場に加え新たに町田雪置き場を開設するなどして満足度向上に取り組んできましたが、当該指標は年々低下していることから雪対策の取組に関する情報発信を強化するとともに、新たな取組を検討していく必要があります。
 ・津軽産ワインぶどうの産地化促進により、災害等に強い産地形成と本市の新たな魅力創出につながっています。
 ・子ども食堂やフードバンク活動など、新しい支えあいの地域づくりを推進し、地域共生社会の実現に貢献しました。

指標・目標値の妥当性

・「冬期間における安心・快適な生活が送れていることに満足している市民の割合」について、調査の対象となる期間が冬季に限定されており、本プロジェクトの先導的な計画事業である道路環境整備や渋滞対策、景観の保全などの観点も含める必要があることから、見直しが必要です。
 ・「一人当たりの農林業生産額」について、農業は本市の基幹産業であり、地域経済に相当の波及効果をもたらしていることから、「暮らしを支える産業施策の推進」のアウトカム指標として妥当です。
 ・「障がい者が安心して生活できるまちであると思う市民の割合」について、障がい者のみが対象となっていますが、本プロジェクトの期待する成果は、「障がい者のほか高齢者等を含めた市民が安心して生活できるような住みよいまちの形成が図られる」であることから、見直しが必要です。

アウトカムに寄与したこと・効果があったこと(成果)

<1 弘前ならではの快適なまちづくり>
 ・ごみ減量等市民運動推進事業では、各種団体との協定締結(2019(令和元)年度:11団体、2020(令和2)年度:4団体、2021(令和3)年度:3団体)、啓発広報誌の発行(年3回程度)、「ミニ・キエーロ」モニター事業(2020(令和2)年度:194名参加、2021(令和3)年度:148名参加)など、市民及び事業者との協働による取組を実施した結果、1人1日当たりのごみ排出量は、2020(令和2)年度で1,074gと、2018(平成30)年度の1,142gから68g減少しました。

<2 暮らしを支える産業施策の推進>
 ・農作業省力化・効率化緊急対策事業では、2020(令和2)年度より採択方法を抽選からポイント制に変更し、2021(令和3)年度には農業用ハウス整備の支援を追加するなど、制度の見直しを行いながら運用し、将来の担い手である認定新規就農者や農業者の経営基盤を強化しました。

<3 高齢者や障がい者等に寄り添った支援>
 ・就労移行支援事業では、一般就労を目指して就労に必要な知識及び能力獲得のために訓練を受ける障がい者が年々増加しており、地域における障がい者の自立に寄与しました。

課題となったこと・効果がなかったこと(課題)

<1 弘前ならではの快適なまちづくり>
 ・少子高齢化の進行に伴う除雪困難者の増加や、除排雪業者及び市民活動の担い手不足も顕在化しています。特に、今冬は極端な集中降雪に見舞われ、市内各所の積雪が一気に急増し、生活道路を含め早めの対応を実施したものの、一定の課題は残るため、市民、企業、行政が連携する除排雪体制の展開を推進し、年々多様性を増す雪対策への要求に対応する体制づくりを官民一体となって進めていく必要があります。

<2 暮らしを支える産業施策の推進>
 ・ライフ関連産業育成事業(ライフ・イノベーション推進事業)では、ライフ関連産業投資促進基本計画の計画期間が2022(令和4)年度末までとなっており、今後の方向性を検討する必要があります。

<3 高齢者や障がい者等に寄り添った支援>
 ・多様な人材活躍応援事業では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、高齢者・障がい者雇用促進セミナーが2020(令和2)年度、2021(令和3)年度ともに開催中止となっており、地域の機運醸成・理解促進を図る機会を創出する必要があります。

後期基本計画における方向性及び見直し内容

施策・アウトカム(指標・成果)の方向性、見直し内容

・効果的な雪対策、車両や歩行者通行の安全確保、ごみの減量化により、弘前ならではの快適なまちづくりに引き続き取り組んでいきます。
 ・農業基盤の強化、健康医療産業の誘致により、暮らしを支える足腰の強い産業の維持・強化に引き続き取り組んでいきます。
 ・高齢者や障がい者等も含め市民が安心して生活できるような住みよいまちの形成に引き続き取り組んでいきます。
 ・「冬期間における安心・快適な生活が送れていることに満足している市民の割合」を「公害、ごみ、害虫など、日常生活における生活環境について満足している市民の割合」に変更し、市民のより幅広い評価を指標とします。
 ・「障がい者が安心して生活できるまちであると思う市民の割合」を「弘前市は住みよいまちだと思いますか」に変更し、市民のより幅広い評価を指標とします。

アウトプット(取組内容)・インプット(計画事業)の方向性、見直し内容

<1 弘前ならではの快適なまちづくり>
 ・2022(令和4)年度市民意識アンケートでは、「雪対策について新しい取組が行われていると感じていますか」について、「感じている」と答えた方の割合が12.2%となっており、2021(令和3)年度の15.4%から3.2ポイント下降、2020(令和2)年度の19.3%からは7.1ポイント下降しています。近年、雪対策の取組を強化していますが、その情報発信が不足していると考えられることから、市民への周知・PRを積極的に図るとともに、新たな取組を検討していきます。

<2 暮らしを支える産業施策の推進>
 ・「健康都市弘前」の実現に向け、健康医療産業を誘致して産業基盤の強化を図り、雇用の確保と所得の向上につなげていきます。

<3 高齢者や障がい者等に寄り添った支援>
 ・多様な人材活躍応援事業では、高齢者・障がい者雇用促進に関するセミナー等の実施により、地域の機運醸成・理解促進を図る機会を創出します。

二次評価

プロジェクト名 (1) 誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり

アウトカム

「対象者(受益者)」

・市民、農家、農業者団体、農業法人、高齢者、障がい者、事業者

施策により「期待する成果」は何か

・効果的な雪対策が図られるとともに、車両や歩行者通行の安全が確保できるほか、ごみの排出量の削減やリサイクル率の向上が図られます。
 ・農産物輸送の安定化が進み、生産基盤の機能が保持されるとともに、りんご産業やライフ関連産業等で新事業が創出され、地域経済の活性化が図られます。
 ・高齢者や障がい者等を含め市民が安心して生活できるような住みよいまちの形成が図られ、地域共生社会が実現します。

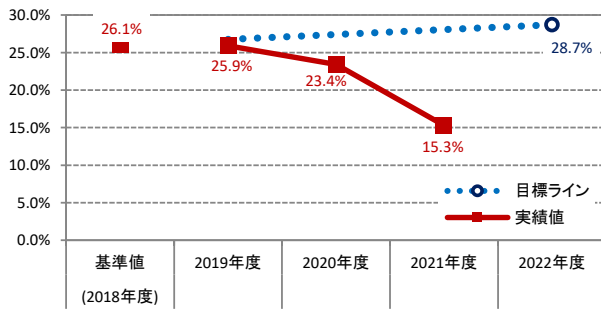
■ 定性評価

評価内容	定性評価
<1 弘前ならではの快適なまちづくり> ・高齢者への間口対策とした除雪困難者支援は、地域から好評を頂いています。 <2 くらしを支える産業施策の推進> ・農業従事者からは、中部広域農道等の改修により「農産物の荷傷み防止が図られた」と評価されています。 <3 高齢者や障がい者等に寄り添った支援> ・多様な人材活躍応援事業で実施している「資格取得チャレンジ支援事業」について、「非常に好評なので、求職者に対し活用を積極的に促してほしい」との声があります。	○

※評価 ◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。

■ 定量評価(プロジェクト指標①)

指標名	基準値	実績値一覧					目標値		3か年での指標の定量評価
	2018年度	2019年度 (2020年度)	2020年度 (2021年度)	2021年度 (2022年度)	2022年度 (取得年度)	2022年度	(方向)		
冬期間における安心・快適な生活が送れていることに満足している市民の割合	26.1%	25.9%	23.4%	15.3%		28.7%	↑	△	
	—	△	△	△		—			

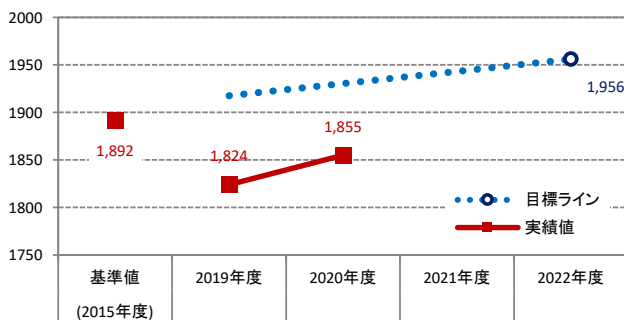


※評価 ◎:目標を上回って推移している。
 ○:目標には達していないが改善の方向で推移している。
 △:基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性
本指標は、調査の対象期間が冬季に限定されており、既に市民意識アンケートで取得している「住みやすさに対する市民の満足度」に変更し、調査の対象期間を通年にするのが妥当です。	指標 変更 目標値 —

■ 定量評価(プロジェクト指標②)

指標名	基準値	実績値一覧					目標値		3か年での指標の定量評価
	2015年度	2019年度 (2017年度)	2020年度 (2018年度)	2021年度 (取得年度)	2022年度 (取得年度)	2022年度	(方向)		
一人当たりの農林業生産額	1,892千円	1,824	1,855	—		1,956千円	↑	△	
	—	△	△	—		—			



※評価 ◎:目標を上回って推移している。
 ○:目標には達していないが改善の方向で推移している。
 △:基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性
本指標は、「くらしを支える産業」を数値化できる指標であることから、後期基本計画においても指標として設定します。 ※2021年度の実績値は2022(令和4)年11月頃に青森県が公表する予定。	指標 維持 目標値 維持

プロジェクト名		(1) 誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり						
■ 定量評価(プロジェクト指標③)								
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での 指標の 定量評価
	2018年度	2019年度 (2020年度)	2020年度 (2021年度)	2021年度 (2022年度)	2022年度 (取得年度)	2022年度	(方向)	
障がい者が安心して生活できるまちであると思う市民の割合	25.5%	28.3%	24.1%	24.3%		30.0%	↑	△
	—	◎	△	△		—		

年度	実績値 (%)	目標値 (%)
基準値 (2018年度)	25.5%	30.0%
2019年度	28.3%	30.0%
2020年度	24.1%	30.0%
2021年度	24.3%	30.0%
2022年度	30.0%	30.0%

※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
 △: 基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性
本指標は、調査の対象が障がい者に限定されており、既に市民意識アンケートで取得している「住みやすさに対する市民の満足度」に変更し、調査の対象を障がい者のほか高齢者等を含めた市民にすることが妥当です。	指標 変更
	目標値 —

プロジェクト名 (1) 誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり

アウトプット インプット

No	事業名	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
1 プロジェクトを構成する先導的な計画事業	① 除排雪事業 (建設部 道路維持課)	予算額	800,000	1,400,000	1,950,000	1,000,000	活動結果 ・雪対策は降雪量に左右されませんが、市民に快適な雪国生活を送ってもらうため、行政による除排雪作業をはじめ、地域と行政が連携した雪対策を進め、道路交通や良好な市民生活の確保を図りました。	成果	○
		決算額	688,346	1,394,798	1,935,380			R5 方向性	維持
		特定財源	104,089	188,780	307,098				
		一般財源	584,257	1,206,018	1,628,282	0			
	② ごみ減量等市民運動推進事業 (市民生活部 環境課)	予算額	7,838	4,730	4,730	5,512	活動結果 ・各種団体との協定締結、ワークショップ型勉強会の開催、啓発広報誌の発行、「ミニ・キエーロ」モニター事業、スポGOMI大会開催など、市民及び事業者との協働による事業を様々な実施した結果、1人1日当たりのごみ排出量は、2020(令和2)年度で1,074gと、平成30年度の1,142gから68g減少しました。	成果	○
		決算額	6,568	3,782	2,558			R5 方向性	維持
		特定財源	1,590	0					
一般財源		4,978	3,782	2,558	0				
③ 生活道路等環境向上事業 (建設部 道路維持課)	予算額	80,000	100,000	100,000	100,000	活動結果 ・市政懇談会で要望があった生活道路の舗装補修(23件)、道路補修(21件)、溝補修(25件)、防護柵補修等(4件)を計画的に実施したことで、快適な生活環境や安全で円滑な道路交通を確保しました。	成果	○	
	決算額	77,738	99,031	97,177			R5 方向性	維持	
	特定財源	69,900	89,100	87,400					
	一般財源	7,838	9,931	9,777	0				
④ 道路補修事業 (建設部 道路維持課)	予算額	150,000	181,000	190,000	105,000	活動結果 ・劣化が著しい箇所の側溝補修(13件)により路肩の段差を解消したほか、舗装補修(23件)、排水施設改修(1件)により、安全で円滑な道路交通を確保しました。	成果	○	
	決算額	57,820	146,660	189,881			R5 方向性	維持	
	特定財源	54,909	143,817	186,340					
	一般財源	2,911	2,843	3,541	0				
⑤ ピンポイント渋滞対策事業 (建設部 土木課)	予算額	0		23,900	18,600	活動結果 ・区画線の引き直しによる右折ポケットを設置した交差点(1か所)では右折車による直進阻害が改善され、渋滞の緩和がみられました。また、右折レーン設置のため用地を取得しました。	成果	○	
	決算額			24,794			R5 方向性	維持	
	特定財源			21,000					
	一般財源	0	0	3,794	0				
⑥ 景観形成・魅力発信事業 (都市整備部 都市計画課)	予算額	3,402	3,366	3,032	2,693	活動結果 ・大森勝山遺跡の世界遺産登録に伴い景観計画を変更し、当該計画に基づいた景観形成を図りました。 ・違法屋外広告物や景観阻害屋外広告物の撤去・除去により景観の向上につなげることができました。	成果	○	
	決算額	1,914	1,633	1,410			R5 方向性	維持	
	特定財源	272	411	254					
	一般財源	1,642	1,222	1,156	0				
⑦ 歴史的資源を活用した観光まちづくり事業 (観光部 観光課)	予算額	0		500	1,000	活動結果 ・宿泊・飲食・物販利用等を想定した文化財の観光面での利活用可能性調査を実施しました。 ・利活用することで歴史的資源を持続的に保存・継承していく仕組みの構築を検討しました。	成果	○	
	決算額			500			R5 方向性	維持	
	特定財源			0					
	一般財源	0	0	500	0				

プロジェクト名		(1) 誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり							
No	事業名	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
2 暮らしを支える産業施策の推進 プロジェクトを構成する先導的な計画事業	⑧ 農作業省力化・効率化対策事業 (農林部 農政課)	予算額	23,600	23,600	25,106	51,102	活動結果 ・2020(令和2)年度より採択方法を全員抽選からポイント制に変更し、2021(令和3)年度には農業用ハウス整備の支援を追加するなど制度を見直しながら運用し、将来の担い手である認定新規就農者や農業者の経営基盤を強化しました。	成果	○
		決算額	23,600	23,459	25,020			R5方向性	維持
		特定財源	0	0					
		一般財源	23,600	23,459	25,020	0			
	⑨ 津軽産ワインぶどう産地化促進事業 (農林部 農政課)	予算額	0		5,000	10,120	活動結果 ・三者協定締結後、既存の2名の生産者に加え、新たに2名が生産を開始したほか、地域おこし協力隊が1名着任するなど、プロジェクトが具体的に動き始めました。また、本市のふるさと納税返礼品に限定ワインが採用される等、産地化に向けた機運の醸成を図りました。	成果	○
		決算額			2,284			R5方向性	維持
		特定財源			2,284				
		一般財源	0	0	0	0			
	⑩ 農道等整備事業 (農林部 農村整備課)	予算額	10,700	10,700	10,700	12,500	活動結果 ・中部広域農道の維持管理(舗装補修、区画線設置、照明設備改修等)などの農業用施設に必要な維持管理を実施したことにより、農業生産基盤や農村生活環境の機能維持を図りました。	成果	○
		決算額	17,152	12,549	10,284			R5方向性	維持
		特定財源	6,000	0					
		一般財源	11,152	12,549	10,284	0			
⑪ 農福連携モデル事業 (農林部 農政課)	予算額	0	0	1,512	0	活動結果 ・8名の農業者等が障がい福祉事業所へ摘果や袋掛けなど13項目のりんご作業を委託しました。農業者等から報告された評価内容などを分析し、障がい者が対応可能な作業の整理を行いました。※本事業は2021(令和3)年度のみ取組ですが、成果は2022(令和4)年度新規の「農福連携新規取組促進事業」に引き継がれ、引き続き農福連携に取り組む農業者を支援しています。	成果	○	
	決算額			917			R5方向性	終了	
	特定財源								
	一般財源	0	0	917	0				
⑫ ライフ関連産業育成事業 (ライフ・イノベーション推進事業) (商工部 産業育成課)	予算額	15,200	21,200	27,700	11,000	活動結果 ・地域経済牽引事業計画に記載されているライフ関連分野の事業者の環境整備や取組を支援し、新たな設備投資や事業所設立などを促しました。 ・ライフ関連分野における新たな製品・サービスの開発等が促進され、地域経済の基盤強化が図られました。	成果	○	
	決算額	5,866	8,863	9,093			R5方向性	維持	
	特定財源	2,867	4,431	4,546					
	一般財源	2,999	4,432	4,547	0				
⑬ 安心安全見守りネットワーク事業 (福祉部 介護福祉課)	予算額	0	0	0	0	活動結果 ・年々、通報件数は増加していましたが、ここ3か年は減少に転じています。これは、本事業の実施により、各地域で「見守り」の重要性が少しずつ認識され、助け合い機能が徐々に強化されているものと認識しています。	成果	○	
	決算額	0	0	0			R5方向性	維持	
	特定財源	0	0	0					
	一般財源	0	0	0	0				

プロジェクト名		(1) 誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり							
No	事業名	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
3 高年齢者や障がい者等に寄り添った支援プロジェクトを構成する先導的な計画事業	⑭ ほのぼのコミュニティ21推進事業 (福祉部 福祉総務課)	予算額	225	225	225	225	活動結果 ・住民ボランティアである「ほのぼの交流協力員」による訪問と交流を通じた見守り活動であり、市が行う重層的な見守り体制の一翼を担っています。対象世帯の孤立解消に貢献した一方、住民ボランティアがいないため実施していない地区もありますが、新型コロナウイルス感染症の影響下でも、活動件数は一定程度維持しました。	成果	○
		決算額	225	324	225			R5 方向性	維持
		特定財源	112	211	112				
		一般財源	113	113	113	0			
	⑮ 弘前型基幹相談支援体制強化事業 (福祉部 障がい福祉課)	予算額	35,795	35,795	35,795	42,875	活動結果 ・障がい者が地域で安心して暮らせるよう、総合的な支援を提供できる委託事業所により「弘前型基幹相談支援体制」を構築し、相談支援等をワンストップで実施できる体制の充実・強化を図りました。	成果	○
		決算額	35,795	35,795	35,795			R5 方向性	維持
		特定財源	27,818	27,793	26,845				
		一般財源	7,977	8,002	8,950	0			
	⑯ 就労移行支援事業 (福祉部 障がい福祉課)	予算額	31,781	26,711	35,432	55,610	活動結果 ・障がい者の一般就労への移行を促進するため、就労移行支援事業所において、職場体験等の機会や求職活動に関する支援等を提供しました。 ・2019(令和元)年度以降、延べ利用者数、延べ利用日数ともに増加しており、障がい者の地域における自立した生活の実現への支援を図りました。	成果	○
		決算額	35,433	55,610	67,625			R5 方向性	維持
		特定財源	26,574	41,708	50,719				
		一般財源	8,859	13,902	16,906	0			
	⑰ 就労継続支援事業 (福祉部 障がい福祉課)	予算額	770,773	863,390	865,301	876,503	活動結果 ・一般企業での就労が困難な障がい者の、一般就労への移行を促進するため、市内の就労継続支援A型事業所と、B型事業所において福祉就労の場を確保し、就労に必要な知識習得及び能力向上のための訓練・支援を実施しました。	成果	○
		決算額	865,301	876,503	887,379			R5 方向性	維持
		特定財源	648,975	657,377	665,534				
		一般財源	216,326	219,126	221,845	0			
	⑱ 多様な人材活躍応援事業 (商工部 商工労政課)	予算額	6,200	2,602	1,102	1,750	活動結果 ・資格取得については補助金を交付し、令和元年度と比較すると2020(令和2)年度、2021(令和3)年度の申請者数は増えており、早期就職の支援策に一定の効果がありました。 ・高齢者および障がい者の雇用促進セミナーは、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020(令和2)年度、2021(令和3)年度は開催中止としました。	成果	○
		決算額	392	1,236	1,609			R5 方向性	維持
		特定財源	261	0					
一般財源		131	1,236	1,609	0				
⑲ 地域共生社会実現サポート事業 (企画部 企画課)	予算額	0	500	500	500	活動結果 ・「フードバンク活動」や「おさがりごうかん会」の実施など、本市にこれまでになかった仕組みを構築し、新しい形での支え合いの地域づくりを推進しました。 ・また、おさがりごうかん会などにボランティアとして関わる大学生や働き盛り世代、高齢者が増えており、多世代交流の点においても成果をあげました。 ※当初の計画通り、2022(令和4)年度までの3か年で本事業は終了。	成果	◎	
	決算額	0	500	500			R5 方向性	終了	
	特定財源	0	0	0					
	一般財源	0	500	500	0				
計画事業合計 (計画事業の総合評価)		予算額	1,935,514	2,673,819	3,280,535	2,294,990			
		決算額	1,816,150	2,660,743	3,292,431	0			
		特定財源	943,367	1,153,628	1,352,132	0			
		一般財源	872,783	1,507,115	1,940,299	0			

プロジェクト名 (2) 安心できる医療体制と健康長寿の推進

総合評価 (ロジックモデル)

インパクト		アウトカム		アウトプット		インプット				
目指す姿	総合評価	指標・成果	個別評価	総合評価	取組内容	個別評価	事業	成果		
安心できる医療体制と健康長寿の推進	B	・複数の診療科の協働による高度・専門医療の提供 基準値 市立病院12診療科 国立病院18診療科 実績値 新中核病院25診療科 目標値 新中核病院24診療科	◎	◎	<1 市民のいのちを守る体制の整備> ・市民に安定した医療を提供するため、新中核病院の整備を推進するとともに、一次、二次、三次救急医療体制を維持していきます。	○	1) 新中核病院整備推進事業	◎		
							2) 先端医療体制整備事業(ライフ・インベーション推進事業)	○		
									3) 弘前市急患診療所運営事業	○
									4) 弘前大学医学部附属病院高度救命救急センター運営費補助金	○
									5) 地域で学ぼう！食育講座いただきます	○
									6) 給食で学ぼう！食育スクール	○
									7) 次世代の健康づくり推進事業	○
									8) がん検診受診率向上強化対策事業	○
									9) 胃がんリスク検診事業	◎
									10) 大腸がん検診推進事業	◎
									11) 20・30代健診	○
									12) 糖尿病性腎症重症化予防事業	○
									13) 働き盛り世代への運動教室開催事業	○
									14) ひろさき健幸増進リーダー活動支援事業	○
									15) 弘前市健康づくりサポーター制度	○
									16) 栄養・食生活改善推進事業	○
									17) 岩木健康増進プロジェクト推進事業	○
									18) 子育て世代包括支援センター事業	◎
									19) 健やか育児支援事業	◎
									20) 高齢者介護予防運動教室事業	○
									21) 高齢者ふれあい居場所づくり事業	○
									22) 包括的支援事業	○
									23) 認知症支援事業	○
		・肥満傾向児の出現率 小5男 基準値 12.4% 実績値 16.8% 目標値 9.9% 小5女 基準値 10.4% 実績値 11.5% 目標値 7.6% 中2男 基準値 8.1% 実績値 11.9% 目標値 7.7% 中2女 基準値 8.3% 実績値 11.1% 目標値 6.5%	△		<2 食育や検診の強化による健康長寿の推進> ・子どもの頃から望ましい生活習慣を身に付け、子どもと親がともに食育に取り組むとともに、働き盛り世代の検診受診環境を充実させ、健康長寿を推進します。	○				
		・要介護認定を受けていない高齢者の割合 基準値 80.3% 実績値 81.4% 目標値 82.0%	○	○						
		【定性評価】 ・弘前市健康づくり審議会からは、がんは治る病気なので検診を早めに受けようという意識付けを学校教育段階から取り上げるべきという意見がありました。								
		・地域包括支援センター運営協議会から、同センターへの認知症の相談件数が増えたことは、今までの活動成果の表れだと思うので、引き続き認知症サポーター養成講座を開催する必要があるという意見がありました。	○		<3 健康福祉の拠点整備と介護・福祉施策の充実> ・安心して妊娠・出産・育児ができる環境を整備するほか、高齢者の介護予防と自立支援介護、地域包括ケアの構築、認知症対策を強化します。	○				

※アウトカムの総合評価 A:十分達成された。 B:概ね達成された。 C:あまり達成されなかった。 D:達成されなかった。

プロジェクト名 (2) 安心できる医療体制と健康長寿の推進

後期基本計画の策定に向けた前期基本計画(3か年分)の総括

<p>後期基本計画策定のための市民ワークショップ及び各種団体からの意見、提案等</p> <p><2 食育や検診の強化による健康長寿の推進> ・後期基本計画策定のための市民ワークショップでは、弘前全体を医療の研修所と捉え、「短命＝伸びしろ」と考えて健康づくり事業を積極展開し、いきいき健診を継続・発展させてほしいという意見がありました。</p> <p><3 健康福祉の拠点整備と介護・福祉施策の充実> ・後期基本計画策定のための市民ワークショップでは、地域ごとに高齢者が子どもを見守る体制を整備し、高齢者と子どもが交流し子どもが地域を学ぶ機会を創出してほしいという意見がありました。</p>
<p>※参考 令和4年度の事中評価</p>
<p><1 市民のいのちを守る体制の整備> ・新中核病院、弘前市救急診療所、弘前大学医学部高度救命救急センターの運営により、一次、二次、三次救急体制を維持しています。</p> <p><2 食育や検診の強化による健康長寿の推進> ・給食で学ぼう！食育スクールでは、昨年度延期となった「食育フェスティバル」を4月に開催したほか、年2回実施している県産食材をふんだんに使った「ふるさと産品給食の日」の実施の準備や、規格外品の地元食材を活用した食育の実施に向けた検討を進めています。</p> <p><3 健康福祉の拠点整備と介護・福祉施策の充実> ・高齢者ふれあい居場所づくり事業では、居場所の活動の継続が困難な団体も見られ、居場所登録数が大幅に減少しています。新規の登録を増やすための周知活動を行うとともに、生活支援コーディネーターと協力しながら登録数の増加を図っています。</p>

アウトカム

<p>アウトカムの総括(3か年)</p> <p>・プロジェクト指標「定性評価ともおおむね〇であり、総合評価はBとします。</p> <p>・プロジェクト指標のうち「肥満傾向児の出現率」については、調査中止のため実績値を測定できない年度があったものの、年々悪化傾向にあります。子どもの肥満対策について、保護者も含めて食生活の改善や健康に関する意識改革や習慣付け、運動不足の解消など、あらゆる関連分野での取組の強化が必要です。</p> <p>・各種がん検診の受診率向上に向けた取組は、受診勧奨の手法を様々工夫して実施した結果、胃がんや大腸がん検診の受診率向上につながっています。</p> <p>・20代・30代健診についても、周知活動等を通じて受診者数は増えていきます。一方で、肥満や高血圧等が改善していないケースが多く、健康課題の改善につながる取組の検討が必要です。</p>
<p>指標・目標値の妥当性</p> <p>・プロジェクト指標「複数の診療科の協働による高度・専門医療の提供」については、新中核病院の整備完了により目標達成となったことから、後期基本計画では新たな指標及びアウトプットの取組内容の変更が必要です。</p> <p>・それ以外のプロジェクト指標については、本施策の指標として妥当ですが、目標値の達成の目的が立っていないことから、引き続き後期基本計画においても目標値の達成に向けて取り組む必要があります。</p>

アウトプット

インプット

<p>アウトカムに寄与したこと・効果があったこと(成果)</p> <p><1 市民のいのちを守る体制の整備> ・新中核病院は、当初の予定通り令和4年4月1日に開院し、二次救急医療体制を強化したほか、弘前市急患診療所の運営や弘前大学医学部高度救命救急センターの運営支援を通じて、一次、二次、三次救急体制も維持しています。</p> <p><2 食育や検診の強化による健康長寿の推進> ・胃がんリスク健診事業では、コロナ禍でも受診率は微増傾向にあるほか、令和3年度からは受診勧奨を強化した結果受診率が大きく上昇しました。</p> <p>・大腸がん検診推進事業では、令和3年度から予め検査キットを送付し提出先をヒロロ等の身近な場所にした結果、40代の受診率が前年度の約2倍と大幅に増加しました。胃がんリスク健診事業と合わせて、平均寿命の延伸に寄与しています。</p> <p>・20・30代健診は、インターネット予約やSNSの周知等により受診者が増加傾向にあり、受診者の約半数が血糖値等の数値改善につながっています。</p> <p><3 健康福祉の拠点整備と介護・福祉施策の充実> ・子育て世代包括支援センター事業は、母子健康手帳の交付窓口を集約し、専門職が定期的な状況確認や個々に応じた支援の調整を行うなど、安心して妊娠・出産・育児ができる環境整備につながりました。</p>
<p>課題となったこと・効果がなかったこと(課題)</p> <p><1 市民のいのちを守る体制の整備> ・新中核病院、弘前市救急診療所、弘前大学医学部高度救命救急センターの安定した運営を継続し、一次・二次・三次救急体制を維持する必要があります。</p> <p><2 食育や検診の強化による健康長寿の推進> ・働き盛り世代への運動教室事業は、コロナ禍で対面での教室開催が制限され、想定通りの活動が実施できませんでした。</p> <p>・20・30代健診は、血圧等の数値の改善に至っていない約半数の受診者がいるため、改善につなげる取組内容の見直しが必要です。</p> <p><3 健康福祉の拠点整備と介護・福祉施策の充実> ・高齢者ふれあい居場所づくり事業について、居場所登録数は増えたものの、新たな居場所の開設が事業開始時と比較し伸び悩んでおり、これまで町会やボランティアが設置をしてきた中で、設置数を増やすための人材確保が困難となっています。</p>

後期基本計画における方向性及び見直し内容

<p>施策・アウトカム(指標・成果)の方向性、見直し内容</p> <p>・新中核病院を中心に、市民のいのちを守る体制の安定的な運営を行うとともに、今後は市民一人一人の健康増進や健康意識の向上、運動の促進など、ソフト面での取組を更に強化します。</p> <p>・このため、本施策全体を更に強化し、子どもから働き盛り世代、高齢者に至るまで全ての市民が健康で長生きできる地域づくりを進めるとともに、それに留まらず雇用の創出と所得の向上により若者の地元定着も目指す「健康都市弘前」の実現に向けて、様々な分野の事業を重層的に打ち出していきます。</p> <p>・プロジェクト指標で実績値の低かった子どもの肥満対策については、子どもや保護者など幅広い対象の取組や周知活動を強化します。</p> <p>・プロジェクト指標の「複数の診療科の協働による高度・専門医療の提供」については、適切な指標を検討し、新たに設定します。</p>

<p>アウトプット(取組内容)・インプット(計画事業)の方向性、見直し内容</p> <p><1 市民のいのちを守る体制の整備> ・新中核病院の整備完了と弘前市急患診療所及び弘前大学医学部高度救命救急センターの安定的な運営により、市民のいのちを守る体制が整備されました。今後も安定的な運営を継続するとともに、市民一人一人の健康増進や健康意識の向上など、ソフト面から健康寿命の延伸の取組を更に強化する必要があります。</p> <p><2 食育や検診の強化による健康長寿の推進> ・閉院後の市立病院等に整備する「健康づくりのまちなか拠点」の有効活用に向けて、健康寿命の延伸と中心市街地の活性化に向けた様々な事業に取り組む必要があります。</p> <p>・弘前大学との連携をさらに強化し、岩木健康増進プロジェクト推進事業の成果等を疾病予防などの施策に反映するなど更なる健康寿命の延伸に取り組みます。</p> <p>・子どものころからの食育や健康教育を更に強化し、子どもや親世代の健康意識の底上げを図ります。</p> <p><3 健康福祉の拠点整備と介護・福祉施策の充実> ・子育て世代包括支援センター事業について、複数のリスクを併せ持つ妊産婦が多く適切な支援が求められるため、他機関との強固な連携体制を確立するなど、誰もが安心して妊娠・出産・子育てできる環境整備を強化します。</p>

プロジェクト名 (2) 安心できる医療体制と健康長寿の推進

二次評価

アウトカム

対象者(受益者)	施策により「期待する成果」は何か	定性評価						
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、子どもと保護者、市内事業者(従業員とその家族)、高齢者及び障がい者とその家族 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の診療機能が充実するとともに、一次、二次、三次救急医療体制が維持され、市民が安心して生活できる医療体制の整備が図られます。 ・幼い頃からの食育や運動を通じ、子どもと親がともに健康について考え、子どもから高齢者まで地域一体で健康意識が高まり、健康寿命の延伸が図られます。 ・妊娠・出産・育児について必要な支援が切れ目なく提供されるほか、高齢者が介護サービスに頼らず地域で元気に過ごし、自立した日常生活を継続して送ることができるようになり、介護を必要とする高齢者の割合が減少して、地域の活性化が図られます。 	<p>■ 定性評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価内容</th> <th>定性評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <1 市民のいのちを守る体制の整備> ・救急医療関係者からは、市立病院が閉院となる令和3年度後半から新中核病院の運営開始直後の期間における救急医療体制について、輪番制病院参加病院以外の医療機関とも状況を共有しながら、圏域全体で維持していく必要があるとの意見が出されました。 </td> <td rowspan="3">○</td> </tr> <tr> <td> <2 食育や検診の強化による健康長寿の推進> ・地域で学ぶ食育講座の参加者からは、食への感謝や食の大切さを認識したという声が寄せられました。 ・弘前市健康づくり審議会からは、がんは治る病気なので検診を早めに受けようという意識付けを学校教育段階から取り上げるべきという意見がありました。 </td> </tr> <tr> <td> <3 健康福祉の拠点整備と介護・福祉施策の充実> ・地域包括支援センター運営協議会から、同センターへの認知症の相談件数が増えたことは、今までの活動成果の表れだと思うので、引き続き認知症サポーター養成講座を開催する必要があるという意見がありました。 </td> </tr> </tbody> </table>	評価内容	定性評価	<1 市民のいのちを守る体制の整備> ・救急医療関係者からは、市立病院が閉院となる令和3年度後半から新中核病院の運営開始直後の期間における救急医療体制について、輪番制病院参加病院以外の医療機関とも状況を共有しながら、圏域全体で維持していく必要があるとの意見が出されました。	○	<2 食育や検診の強化による健康長寿の推進> ・地域で学ぶ食育講座の参加者からは、食への感謝や食の大切さを認識したという声が寄せられました。 ・弘前市健康づくり審議会からは、がんは治る病気なので検診を早めに受けようという意識付けを学校教育段階から取り上げるべきという意見がありました。	<3 健康福祉の拠点整備と介護・福祉施策の充実> ・地域包括支援センター運営協議会から、同センターへの認知症の相談件数が増えたことは、今までの活動成果の表れだと思うので、引き続き認知症サポーター養成講座を開催する必要があるという意見がありました。
評価内容	定性評価							
<1 市民のいのちを守る体制の整備> ・救急医療関係者からは、市立病院が閉院となる令和3年度後半から新中核病院の運営開始直後の期間における救急医療体制について、輪番制病院参加病院以外の医療機関とも状況を共有しながら、圏域全体で維持していく必要があるとの意見が出されました。	○							
<2 食育や検診の強化による健康長寿の推進> ・地域で学ぶ食育講座の参加者からは、食への感謝や食の大切さを認識したという声が寄せられました。 ・弘前市健康づくり審議会からは、がんは治る病気なので検診を早めに受けようという意識付けを学校教育段階から取り上げるべきという意見がありました。								
<3 健康福祉の拠点整備と介護・福祉施策の充実> ・地域包括支援センター運営協議会から、同センターへの認知症の相談件数が増えたことは、今までの活動成果の表れだと思うので、引き続き認知症サポーター養成講座を開催する必要があるという意見がありました。								

※評価 ◎: 大いに評価できる。 ○: 概ね評価できる。 △: 課題がある。

■ 定量評価(プロジェクト指標①)

指標名	基準値	実績値一覧					目標値		3か年での指標の定量評価
	2018年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)		
複数の診療科の協働による高度・専門医療の提供(単位:科)	弘前市立病院 12診療科 国立病院機構弘前病院 18診療科	新中核病院 整備中	新中核病院 整備中	新中核病院 25診療科で開院		新中核病院 24診療科	-	◎	
	-	○	○	◎		-			

※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
△: 基準値より悪化の方向で推移している。

【2018年度基準値】
・弘前市立病院 12診療科 ・国立病院機構弘前病院 18診療科

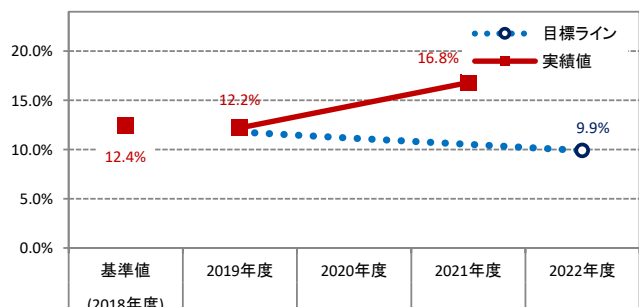
【2022年度目標値】
・新中核病院 24診療科【内訳以下】
呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、内分泌代謝内科、神経内科、消化器外科、乳腺外科、
整形外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、
放射線科、病理診断科、臨床検査科、救急科、麻酔科、総合診療科、歯科

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性
予定通り新中核病院の整備を終えたため、後期基本計画では新たな指標を設定します。	指標 変更 目標値 -

■ 定量評価(プロジェクト指標②)

指標名	基準値	実績値一覧					目標値		3か年での指標の定量評価
	2017年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)		
肥満傾向児の出現率(小5男)	12.4%	12.2%	調査中止	16.8%		9.9%	↓	△	
	-	○	-	△		-			

※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
△: 基準値より悪化の方向で推移している。

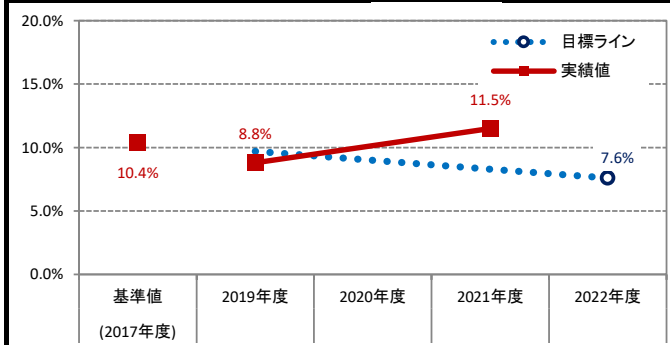


後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性
新型コロナウイルス感染症の影響により、運動する機会の減少や食事量の増加が、目標値を達成できない一因と考えますが、運動機会の回復の兆しが見えてきたことから、指標及び目標値の方向性は維持とします。	指標 維持 目標値 維持

プロジェクト名 (2) 安心できる医療体制と健康長寿の推進

■ 定量評価(プロジェクト指標③)

指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2017年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)	
肥満傾向児の出現率(小5女)	10.4%	8.8%	調査中止	11.5%		7.6%	↓	△
	—	◎	—	△		—		

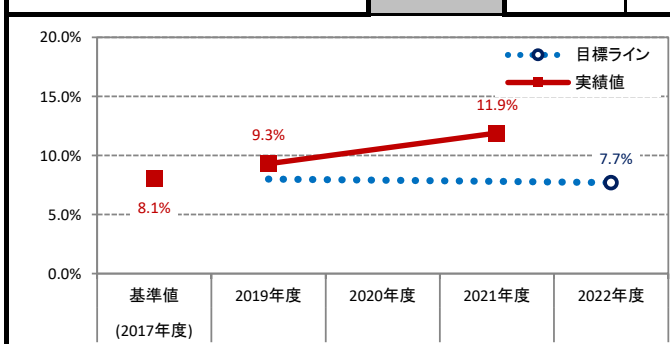


※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
△: 基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)		後期基本計画での方向性	
新型コロナウイルス感染症の影響により、運動する機会の減少や食事量の増加が、目標値を達成できない一因と考えますが、運動機会の回復の兆しが見えてきたことから、指標及び目標値の方向性は維持とします。	指標	維持	
	目標値	維持	

■ 定量評価(プロジェクト指標④)

指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2017年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)	
肥満傾向児の出現率(中2男)	8.1%	9.3%	調査中止	11.9%		7.7%	↓	△
	—	△	—	△		—		

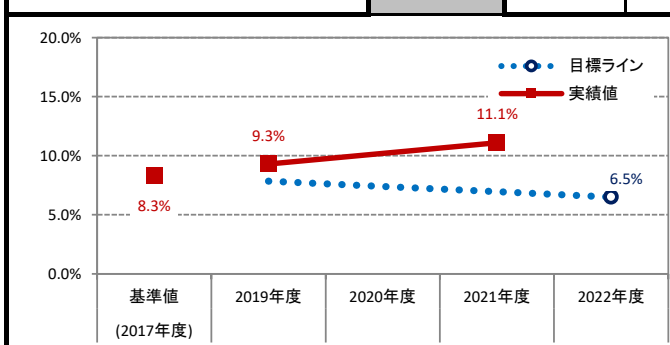


※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
△: 基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)		後期基本計画での方向性	
新型コロナウイルス感染症の影響により、運動する機会の減少や食事量の増加が、目標値を達成できない一因と考えますが、運動機会の回復の兆しが見えてきたことから、指標及び目標値の方向性は維持とします。	指標	維持	
	目標値	維持	

■ 定量評価(プロジェクト指標⑤)

指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2017年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)	
肥満傾向児の出現率(中2女)	8.3%	9.3%	調査中止	11.1%		6.5%	↓	△
	—	△	—	△		—		



※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
△: 基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)		後期基本計画での方向性	
新型コロナウイルス感染症の影響により、運動する機会の減少や食事量の増加が、目標値を達成できない一因と考えますが、運動機会の回復の兆しが見えてきたことから、指標及び目標値の方向性は維持とします。	指標	維持	
	目標値	維持	

プロジェクト名 (2) 安心できる医療体制と健康長寿の推進								
■ 定量評価(プロジェクト指標⑥)								
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2018年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2021年度	(方向)	
要介護認定を受けていない高齢者の割合	80.3%	80.5%	81.2%	81.4%		82.0%	↑	○
	—	○	◎	○		—		

年度	実績値	目標値
2018年度	80.3%	80.3%
2019年度	80.5%	80.5%
2020年度	81.2%	81.2%
2021年度	81.4%	81.4%
2022年度		82.0%

※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
 △: 基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む) 本指標は、高齢者が元気で過ごしているかどうかを測る適切な指標であるため、後期基本計画においても指標として設定します。また、目標値の達成に向けて順調に推移していますが、後期基本計画でも本目標値を維持し、引き続き目標値の達成及び同水準の維持を目指します。	後期基本計画での方向性 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>指標</td> <td>維持</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>維持</td> </tr> </table>	指標	維持	目標値	維持
指標	維持				
目標値	維持				

アウトプット ← インプット

No	事業名	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
1 市民の命を守る体制の整備	① 新中核病院整備推進事業 (企画部 地域医療推進室)	予算額	1,513	1,001,097	1,001,006	活動結果 ・令和4年4月1日に、当初の予定よりも多い25診療科で開院しました。 ・開院までの間、新中核病院の概要や新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた感染予防対策などについてまとめた広報紙を、本市及び津軽地域保健医療圏の他市町村へ配布し、広く周知を図りました。	成果	◎	
		決算額	443	133,657	1,867,891		R5方向性	—	
		特定財源	0	132,800	1,767,200				
		一般財源	443	857	100,691		0		
	② 先端医療体制整備事業(ライフ・イノベーション推進事業) (企画部 企画課)	予算額	36,690	31,690	26,580	活動結果 ・先端医療研究開発プロフェッショナル事業及び先端医療普及促進セミナーは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、先端医療促進補助金は計6件の活用があり、医療機関に先端医療機器が導入されたことで、地域における先端医療の提供体制の整備が着実に進んでいます。 ・ICT技術を活用した医療機関間の情報連携システムの導入は、市内5病院と弘前地区消防事務組合のほか、西北五地域まで拡大し、急性期医療の体制強化を図りました。	成果	○	
		決算額	18,949	15,022	7,953		R5方向性	—	
		特定財源	8,817	7,476	3,974				
		一般財源	10,132	7,546	3,979		0		
	③ 弘前市急患診療所運営事業 (健康子ども部 健康増進課)	予算額	108,833	107,256	104,627	104,119	活動結果 ・1年間、1日も欠かさずことなく急患診療所を開業し、一次救急医療を提供しました。 ・利用者は、年々減少しています。 ・施設や設備の老朽化により修理等が多くなっています。	成果	○
		決算額	108,558	104,758	101,778			R5方向性	維持
		特定財源	104,863	38,621	42,980				
		一般財源	3,695	66,137	58,798	0			
	④ 弘前大学医学部附属病院高度救命救急センター運営費補助金 (企画部 地域医療推進室)	予算額	98,073	79,131	80,396	81,689	活動結果 ・センターの運営費不足分を、本市を含めた9市町村が財政支援し、津軽圏域及び秋田県大館市での三次救急の確保・維持ができました。 ・令和2年度以降の財政支援は、センターが担う医療提供体制の重要性から、費用負担の一部見直しを図っており、引き続き支援しています。	成果	○
		決算額	98,073	70,597	80,396			R5方向性	維持
		特定財源			0				
		一般財源	98,073	70,597	80,396	0			

プロジェクト名		(2) 安心できる医療体制と健康長寿の推進							
No	事業名	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
⑤	地域で学ぼう！食育講座いただきます (教育委員会 生涯学習課(中央公民館))	予算額	525	525	525	525	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から実施実績は落ち込んでいるものの、参加者満足度は90%以上となっており、「食」への感謝・楽しさ等の興味醸成に寄与できています。 ・令和2年度からは、中央公民館ツイッター上での食育企画を掲載し、情報発信を継続しています。	成果	○
		決算額	440	39	97			R5方向性	維持
		特定財源	0		0				
		一般財源	440	39	97	0			
⑥	給食で学ぼう！食育スクール (教育委員会 学務健康課)	予算額	92	92	1,380	270	活動結果 ・栄養士による食に関する指導は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、令和3年度からオンライン指導も開始しました。 ・「ふるさと産品給食の日」についても、年2回、県産食材をふんだんに使用した給食を提供し、児童生徒や家庭への啓発が図られています。	成果	○
		決算額	71	97	774			R5方向性	拡充
		特定財源							
		一般財源	71	97	774	0			
⑦	次世代の健康づくり推進事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額			1,623	1,735	活動結果 ・1歳6か月児、3歳児健診受診者に実施した生活習慣に関するアンケート結果から子どもの生活習慣の現状を把握し、望ましい生活習慣確立を支援するため、対象者に配布物を郵送して情報提供し、新型コロナウイルス感染症の影響をほぼ受けることなく事業を実施できました。	成果	○
		決算額			1,476			R5方向性	維持
		特定財源							
		一般財源			1,476	0			
⑧	がん検診受診率向上強化対策事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	3,419	3,080	2,849	2,674	活動結果 ・インターネット予約による受診者は年々増加しています。 ・大腸がん検診を受ける最初の年である40歳の方に、検査キットの送付と併せてがん検診受診勧奨チラシを同封したところ、以前よりも大腸がん検診の受診につながってきています。	成果	○
		決算額	2,633	2,710	2,734			R5方向性	維持
		特定財源	2,633	2,710	2,734				
		一般財源	0	0	0	0			
⑨	胃がんリスク検診事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	3,379	2,840	3,203	3,203	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されましたが、受診率は年々微増傾向にあります。 ・令和3年度からは、大腸がん検診と併せた受診勧奨のPRを行った結果、前年度よりも受診率が1.2ポイント増加し、初めて受診率が20%台になりました。	成果	◎
		決算額	3,112	2,671	3,203			R5方向性	維持
		特定財源	3,112	2,671	3,203				
		一般財源	0	0	0	0			
⑩	大腸がん検診推進事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	1,690	1,469	1,214	1,214	活動結果 ・令和2年度までは大腸がん検診の無料クーポン券を送付していたものの受診率は約7%でした。 ・令和3年度から受診しやすい環境づくりとして予め大腸がん検査キットを送付すること、その提出先をヒロロ等の身近な場所にしたところ、40代の受診率が前年度の約2倍と大幅に増加しました。	成果	◎
		決算額	698	753	1,214			R5方向性	維持
		特定財源							
		一般財源	698	753	1,214	0			
⑪	20・30代健診 (健康こども部 健康増進課)	予算額	2,232	2,606	2,790	2,805	活動結果 ・インターネット予約やSNSでの周知等により受診者数は増加傾向にあり、保健指導では9割以上が生活習慣改善の必要性を理解できました。 ・約半数が肥満や高血圧等のデータが改善していないため、健康課題の改善につながる取組の検討が必要です。	成果	○
		決算額	2,436	2,227	2,676			R5方向性	維持
		特定財源		2,227					
		一般財源	2,436	0	2,676	0			

プロジェクト名		(2) 安心できる医療体制と健康長寿の推進							
No	事業名	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
2 食育や検診の強化による健康長寿の推進 プロジェクトを構成する先導的な計画事業	⑫ 糖尿病性腎症重症化予防事業 (健康こども部 国保年金課)	予算額	3,792	4,620	4,924	5,003	活動結果 ・対象者の80%以上に受診勧奨を実施し、医療につながった人は75%となりました。 ・新規透析者数は横ばいで推移しているものの、透析導入年齢が事業開始時は50代が多かったものの、現在は70代が多くなり導入が遅くなっています。	成果	○
		決算額	3,087	3,672	3,738			R5方向性	維持
		特定財源	856	866	3,716				
		一般財源	2,231	2,806	22	0			
	⑬ 働き盛り世代への運動教室開催事業 (健康こども部 スポーツ振興課)	予算額	0	0	300	900	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、当初3企業×3回の実施予定でしたが、各企業2回ずつに留まりました。 ・回数が少なかったものの、運動する機会に変化がみられるなど、継続した運動機会の創出につながりました。	成果	○
		決算額	0	0	68			R5方向性	維持
		特定財源	0	0					
		一般財源	0	0	68	0			
	⑭ ひろさき健幸増進リーダー活動支援事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	6,134	6,727	8,541	6,281	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の影響により活動を休止する期間もありましたが、感染症対策を講じ、工夫をしながら活動しています。2021年度は活動休止期間中に役員を中心にリーダー会の規約改正、組織体制の見直しに向けて検討しました。	成果	○
		決算額	5,870	3,011	5,510			R5方向性	維持
		特定財源							
		一般財源	5,870	3,011	5,510	0			
	⑮ 弘前市健康づくりサポーター制度 (健康こども部 健康増進課)	予算額	5,058	4,751	4,751	4,751	活動結果 ・市内25全地区でサポーター協議会が活動し、イベントや家庭訪問で特定健診・がん検診の受診勧奨を行った結果、受診率向上につながりました。 ・サポーター研修会は、感染防止対策を講じ、分割実施など開催方法を工夫し、「高血圧重症化予防」をテーマに各地区での活動にも取り入れました。また、意見交換会を実施し、サポーター活動の活性化を図りました。	成果	○
		決算額	3,893	3,206	2,944			R5方向性	維持
		特定財源							
		一般財源	3,893	3,206	2,944	0			
	⑯ 栄養・食生活改善推進事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	1,010	1,227	1,047	2,966	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、小学校での親子食育教室は中止が続いた期間もあるものの現在は一部再開し、調理実習を伴う教室はイベントでの展示や試食の持ち帰りなどの工夫を行って実施しました。 ・食生活改善推進員研修会や養成講座は、カリキュラムを変更するなどして、毎年度開催しました。	成果	○
決算額		745	719	587		R5方向性		維持	
特定財源									
一般財源		745	719	587	0				
⑰ 岩木健康増進プロジェクト推進事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	831	841	840	840	活動結果 ・感染防止対策を講じ完全予約制で実施しました。受診者数は新型コロナウイルス感染症の影響で、例年の約半数となっています。対面での結果説明会も見合わせ、希望者に電話相談を実施しました。 ・結果報告会も中止が続きましたが、令和3年度は、弘前大学と協力し岩木地区住民に「弘前大学COIホームページ」に関するちらしを作成・配布し、岩木健康増進プロジェクトの事業効果を周知しています。	成果	○	
	決算額	608	381	496			R5方向性	維持	
	特定財源								
	一般財源	608	381	496	0				

プロジェクト名		(2) 安心できる医療体制と健康長寿の推進							
No	事業名	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
3 健康福祉の拠点整備と介護・福祉施策の充実 プロジェクトを構成する先導的な計画事業	⑱ 子育て世代包括支援センター事業 (健康こども部 健康増進課・こども家庭課)	予算額	56,402	54,530	48,714	44,918	活動結果 ・母子健康手帳の交付窓口を集約し、安心して出産・子育てができるよう、専門職が定期的な状況確認や、個々に応じた支援の調整を行いました。 ・妊娠期からの総合相談窓口としての周知も進んでいますが、複数のリスクを併せ持つ妊産婦が多く、適切な支援調整のため他機関との連携のさらなる強化が求められます。	成果	◎
		決算額	56,121	47,239	47,347			R5方向性	拡充
		特定財源	16,688	18,148	19,872				
		一般財源	39,433	29,091	27,475	0			
	⑲ 健やか育児支援事業 (健康こども部 こども家庭課)	予算額			636	443	活動結果 ・ハイリスクなケースでオンラインでの個別相談を導入し個別支援を充実させました。 ・対面での実施は新型コロナウイルス感染症の感染防止等に留意し支援を行いました。	成果	◎
		決算額			343			R5方向性	維持
		特定財源							
		一般財源			343	0			
	⑳ 高齢者介護予防運動教室事業 (福祉部 介護福祉課)	予算額	39,367	42,402	47,681	49,819	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止による休止のため利用者が減少した年もありましたが、令和3年度は高齢者健康トレーニング教室、筋力向上トレーニング教室とも増加傾向にあり、ヒロロの高齢者健康トレーニング教室に集中していた利用を分散しつつ、各教室を開催することで介護予防を推進することができました。	成果	○
		決算額	36,595	35,718	43,692			R5方向性	拡充
		特定財源	28,178	27,502	33,642				
		一般財源	8,417	8,216	10,050	0			
㉑ 高齢者ふれあい居場所づくり事業 (福祉部 介護福祉課)	予算額	1,335	1,435	1,420	1,470	活動結果 ・居場所登録数は伸びてきたものの、新たな居場所の開設については、事業開始時と比較して難しくなっています。生活支援コーディネーターと協力し新たな居場所の登録を目指します。	成果	○	
	決算額	470	831	1,019			R5方向性	拡充	
	特定財源	361	639	784					
	一般財源	109	192	235	0				
㉒ 包括的支援事業 (福祉部 介護福祉課)	予算額	195,804	193,620	246,634	245,748	活動結果 ・市内7カ所の地域包括支援センターで総合的に高齢者支援を実施することができました。 ・地域ケア会議推進事業では、コロナ禍でもリモートを活用するなどして地域課題の解決に取り組みました。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で在宅医療・介護連携推進事業の一部事業が実施できませんでした。 ・第1層、第2層生活支援コーディネーターを市内に配置し、居場所への訪問を行う等地域活動を支援する体制を作ることができました。	成果	○	
	決算額	194,217	192,531	241,461			R5方向性	維持	
	特定財源	149,547	148,248	185,924					
	一般財源	44,670	44,283	55,537	0				
㉓ 認知症支援事業 (福祉部 介護福祉課)	予算額	4,047	3,427	3,277	3,135	活動結果 ・認知症初期集中支援チームによる訪問は21件で、支援チームによる観察・評価、家族支援などの初期の支援を集中的に行い自立生活のサポートを行っています。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、認知症サポーター養成講座はリモートで27回開催し、609人の認知症サポーターの養成につながりました。ただいまサポート訓練は開催なしとなりました。	成果	○	
	決算額	2,157	1,139	1,242			R5方向性	維持	
	特定財源	1,660	877	956					
	一般財源	497	262	286	0				
計画事業合計 (計画事業の総合評価)		予算額	570,226	1,543,366	1,594,958	564,508			
		決算額	539,176	620,978	2,418,639	0			
		特定財源	316,715	382,785	2,064,985	0			
		一般財源	222,461	238,193	353,654	0			

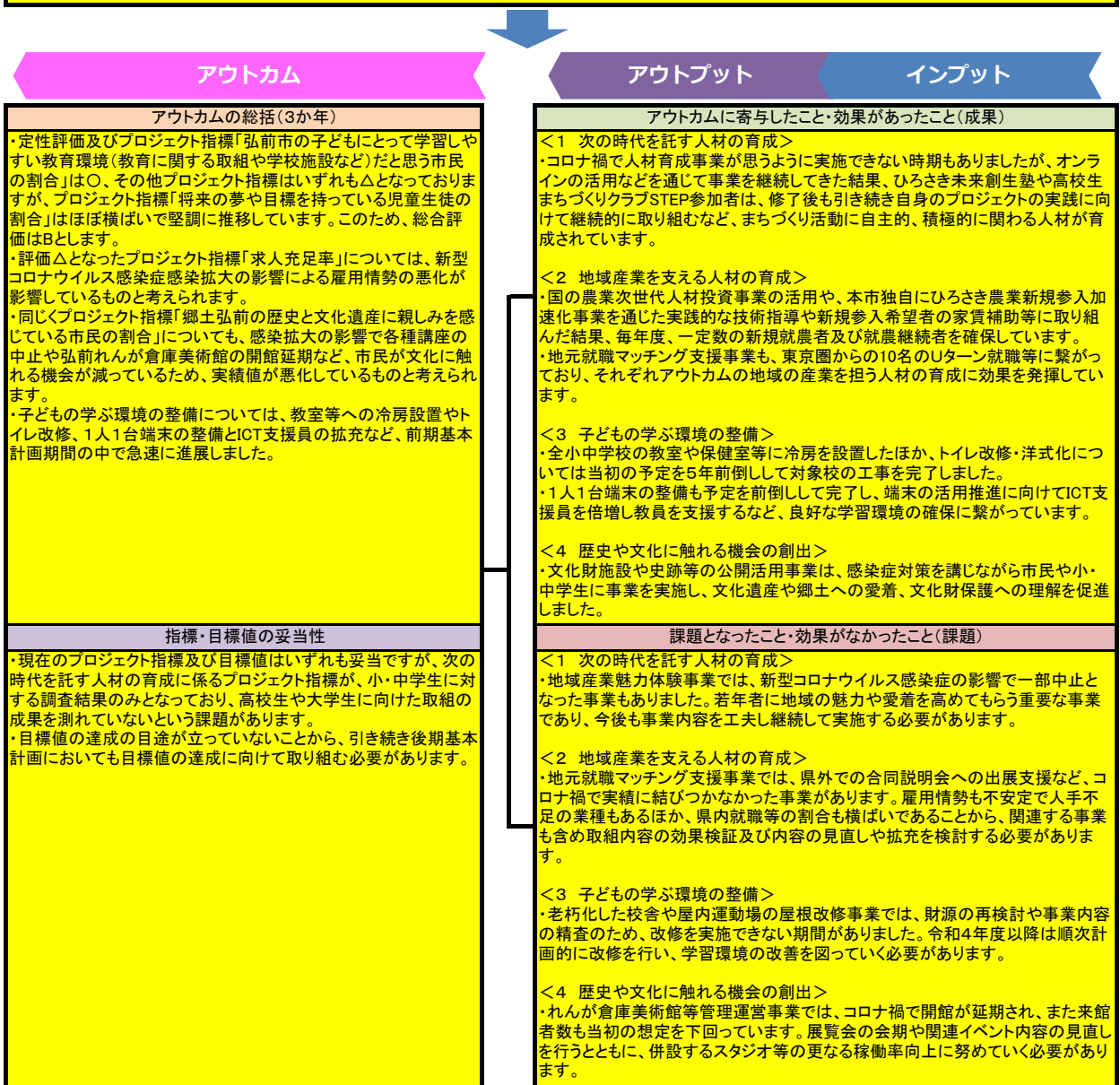
プロジェクト名 (3) 地域を担うひとづくり								
総合評価 (ロジックモデル)								
インパクト		アウトカム		アウトプット			インプット	
目指す姿	総合評価	指標・成果	個別評価	総合評価	取組内容	個別評価	事業	成果
地域を担うひとづくり	B	・将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 小学6年生 基準値 89.2% 実績値 87.1% 目標値 95.0% 中学3年生 基準値 77.3% 実績値 78.6% 目標値 85.0%	△	○	<1 次の時代を託す人材の育成> ・課題解決のために企画立案し、実践活動につなげ、地域資源を活用しながら学ぶことを通して、地域への愛着と職業観を育みます。 <2 地域産業を支える人材の育成> ・本市の産業を担う人材の育成に取り組みます。 <3 子どもの学ぶ環境の整備> ・老朽化が進む学校のトイレや屋根の改修を進め、安全・安心で快適な学校環境を確保します。 <4 歴史や文化に触れる機会の創出> ・文化財や文化・芸術に触れることができる機会を創出するとともに、伝統芸能や伝統行事の保存・伝承を図ります。	○	1) ひろさき未来創生塾	○
		・求人充足率(弘前公共職業安定所管内) 基準値 25.5% 実績値 25.3% 目標値 30.0%	△				2) 地域産業魅力体験事業	○
		・弘前市の子どもにとって学習しやすい教育環境(教育に関する取組や学校施設など)だと思ふ市民の割合 基準値 38.8% 実績値 41.7% 目標値 50.0%	○				3) 地域マネジメント人材育成プログラム構築事業	◎
		・郷土弘前の歴史と文化遺産に親しみを感じている市民の割合 基準値 67.1% 実績値 65.6% 目標値 70.0%	△				4) 農業次世代人材投資事業	○
		【定性評価】 ・地域マネジメント人材育成プログラム構築事業「まちなかキャンパスプロジェクト」の受入先事業者からは「事業に慣れすぎている自分たちでは絶対に思いつかない角度からの提案が非常に役に立った」などの声がありました。 ・「非農家出身者の農業新規参入を促進するためには、新規参入希望者に対して就農に向けた様々な情報を提供できるような体制が必要」との意見がありました。 ・安心して学校生活を送れるという意見が寄せられており、特にトイレについては、これまでの臭い、汚いといったトイレ環境が改善され、児童生徒がトイレを我慢することなく気持ちよく使用しているとの意見や、洋式便器が増えたことで洋式便器に並ぶ子どもの列が無くなったとの意見がありました。 ・文化財や名跡を市民に知ってもらうため、今後は整備計画のプロセスに活用方法と具体的な顧客を想定して取り組み、他部署と共同で実践してほしいという意見がありました。	○				5) ひろさき農業新規参入加速化事業	○
							6) 地元就職マッチング支援事業	○
							7) 未来の弘前を支える人づくり支援事業	○
							8) 小・中学校屋根改修事業	○
							9) 小・中学校校舎等維持改修事業	○
							10) ICT活用教育推進事業	◎
		11) 文化財施設公開事業	○					
		12) 史跡等公開活用事業	○					
		13) 無形民俗文化財用具修理事業	○					
		14) れんが倉庫美術館等管理運営事業	○					

※アウトカムの総合評価 A:十分達成された。 B:概ね達成された。 C:あまり達成されなかった。 D:達成されなかった。

プロジェクト名 (3) 地域を担うひとづくり

後期基本計画の策定に向けた前期基本計画(3か年分)の総括

後期基本計画策定のための市民ワークショップ及び各種団体からの意見、提案等	
<2 地域産業を支える人材の育成>	・ひろさき農政会議では、非農家出身者の農業参入を促すためには、個人農業者等が通年雇用できる体制を整えることが効果的との意見がありました。
<3 子どもの学ぶ環境の整備>	・後期基本計画策定のための高校生ワークショップでは、小学校の教室や廃校を学生の学習スペースとして開放してほしいとの意見がありました。
※参考 令和4年度の事中評価	
<1 次の時代を託す人材の育成>	・地元就職マッチング支援事業では、地元企業のPR動画やインターンシップ情報の掲載など、地元企業魅力発信ホームページの更新に向けて準備を進めているほか、東京圏のみならず県外からのUターン就職等を後押しする仕組みの充実に取り組んでいます。
<2 地域産業を支える人材の育成>	・ひろさき農業新規参入加速化事業では、里親実践研修に1年以上2年未満の中期研修を追加するほか、就業希望者への家賃補助の対象を拡充するなど、更なる人材の確保に向けて事業内容の充実に取り組んでいます。
<3 子どもの学ぶ環境の整備>	・小・中学校屋根改修事業は、予定通り工事着手に向けた設計を進めています。 ・ICT活用教育推進事業は、引き続きICT支援員によるサポートを継続し授業等での更なる活用を進めるとともに、端末を家庭に持ち帰って活用するための支援等にも取り組んでいます。
<4 歴史や文化に触れる機会の創出>	・文化財施設や史跡等の公開活用事業は、感染症対策を講じながら着実に進めています。 ・れんが倉庫美術館等管理運営事業は、コロナ禍でも年2回以上の展覧会開催やイベントの企画など、来館者数の確保に向けて取り組んでいます。



プロジェクト名 (3) 地域を担うひとづくり

後期基本計画における方向性及び見直し内容

施策・アウトカム(指標・成果)の方向性、見直し内容

- ・地域を担うひとづくりに向けた各種取組は、新型コロナウイルス感染症の影響で思うように実施できなかった取組も多いことから、目標値の達成に向けて、後期基本計画においても継続して取り組みます。
- ・特に、次の時代を託す人材の育成については、地域を担うひとづくり分野の核となる取組として、子ども時代から高校生、大学生、そして社会人に至るまで、切れ目なく人材育成の取組を打ち出し、将来弘前で活躍する人材を育て、活力ある地域づくりにつなげていきます。
- ・次の時代を託す人材の育成に係るプロジェクト指標について、高校生や大学生に向けた取組の成果を測るための新たな指標の追加を検討します。

アウトプット(取組内容)・インプット(計画事業)の方向性、見直し内容

<1 次の時代を託す人材の育成>

- ・コロナ禍により対面で直接触れたい体験したりできる機会が制限されているものの、引き続き地域を担うひとづくり分野の核となる取組として、ウイズコロナの中で創意工夫のもと着実に事業を推進していきます。

<2 地域産業を支える人材の育成>

- ・農業分野については、引き続き国事業と本市独自の事業により担い手確保を目指すとともに、地元就職の推進に向けた取組については、より効果が上がるよう事業内容の見直しや拡充も行いながら継続して取り組みます。

<3 子どもの学ぶ環境の整備>

- ・引き続きハードとソフトの両面から事業を推進します。特に、ICT環境については、急速に整備した1人1台端末を十分活かせるよう、学校での授業づくりや各家庭での活用等を支援し、学習環境の向上に取り組みます。

<4 歴史や文化に触れる機会の創出>

- ・れんが倉庫美術館での魅力ある展覧会等の開催や各種文化財講座等を通じて、コロナ禍でも市民が歴史や文化に触れる機会を充実させ、担い手育成につなげていきます。

二次評価

アウトカム

■ 定性評価		評価内容	定性評価
「対象者(受益者)」	施策により「期待する成果」は何か	<p><1 次の時代を託す人材の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域マネジメント人材育成プログラム構築事業「まちなかキャンパスプロジェクト」の受入先事業者からは「事業に慣れすぎている自分たちでは絶対に思いつかない角度からの提案が非常に役に立った」などの声がありました。 <p><2 地域産業を支える人材の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体から「非農家出身者の農業新規参入を促進するためには、新規参入希望者に対して就農に向けた様々な情報を提供できるような体制が必要」との意見がありました。 <p><3 子どもの学ぶ環境の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレや屋根改修の実施校からは、安心して学校生活を送れるという意見が寄せられており、特にトイレについては、これまでの臭い、汚いといったトイレ環境が改善され、児童生徒がトイレを我慢することなく気持ちよく使用しているとの意見や、洋式便器が増えたことで洋式便器に並ぶ子どもの列が無くなったとの意見がありました。 <p><4 歴史や文化に触れる機会の創出></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財や名跡を市民に知ってもらうため、今後は整備計画のプロセスに活用方法と具体的な顧客を想定して取り組み、他部署と共同で実践してほしいという意見がありました。 	○

※評価 ◎: 大いに評価できる。 ○: 概ね評価できる。 △: 課題がある。

プロジェクト名 (3) 地域を担うひとづくり								
■ 定量評価(プロジェクト指標①)								
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2018年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)	
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(小学生)	89.2%	87.4%	調査中止	87.1%		95.0%	↑	△
—		△	—	△		—		
					※評価 ◎: 目標を上回って推移している。 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。 △: 基準値より悪化の方向で推移している。			
後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)							後期基本計画での方向性	
実績値は減少傾向であり、目標値との乖離が大きくなっていることから、同指標を後期基本計画においても指標として設定し、引き続き目標値の達成を目指していきます。							指標	維持
							目標値	維持
■ 定量評価(プロジェクト指標①)								
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2018年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)	
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(中学生)	77.3%	75.9%	調査中止	78.6%		85.0%	↑	○
—		△	—	○		—		
					※評価 ◎: 目標を上回って推移している。 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。 △: 基準値より悪化の方向で推移している。			
後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)							後期基本計画での方向性	
実績値はほぼ横ばいで推移しており、目標値との乖離が大きくなっていることから、同指標を後期基本計画においても指標として設定し、引き続き目標値の達成を目指していきます。							指標	維持
							目標値	維持
■ 定量評価(プロジェクト指標②)								
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2017年度	2019年度(2018年度)	2020年度(2019年度)	2021年度(2020年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)	
求人充足率(弘前公共職業安定所管内)	25.5%	26.1%	25.5%	25.3%		30.0%	↑	△
—		○	○	△		—		
					※評価 ◎: 目標を上回って推移している。 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。 △: 基準値より悪化の方向で推移している。			
後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)							後期基本計画での方向性	
実績値はほぼ横ばいで推移しており、目標値との乖離が大きくなっていることから、同指標を後期基本計画においても指標として設定し、引き続き目標値の達成を目指していきます。							指標	維持
							目標値	維持

プロジェクト名 (3) 地域を担うひとづくり								
■ 定量評価(プロジェクト指標③)								
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2018年度	2019年度(2020年度)	2020年度(2021年度)	2021年度(2022年度)	2022年度	(方向)		
弘前市の子どもにとって学習しやすい教育環境(教育に関する取組や学校施設など)だと感じる市民の割合	38.8%	46.1%	43.9%	41.7%		50.0%	↑	○
	—	◎	○	○		—		
		※評価 ◎: 目標を上回って推移している。 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。 △: 基準値より悪化の方向で推移している。			後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)		後期基本計画での方向性	
本指標は、子どもの学ぶ環境の市民満足度を測る適切な指標であるため、後期基本計画においても指標として設定するとともに、引き続き目標値の達成を目指します。						指標	維持	
						目標値	維持	
■ 定量評価(プロジェクト指標④)								
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2018年度	2019年度(2020年度)	2020年度(2021年度)	2021年度(2022年度)	2022年度	(方向)		
郷土弘前の歴史と文化遺産に親しみを感じている市民の割合	67.1%	69.5%	63.6%	65.6%		70.0%	↑	△
	—	◎	△	△		—		
		※評価 ◎: 目標を上回って推移している。 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。 △: 基準値より悪化の方向で推移している。			後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)		後期基本計画での方向性	
実績値は減少傾向であり、目標値との乖離が大きくなっていることから、同指標を後期基本計画においても指標として設定し、引き続き目標値の達成を目指していきます。						指標	維持	
						目標値	維持	

プロジェクト名		(3) 地域を担うひとづくり							
アウトプット		インプット				アウトプット			
No	事業名 (所管部課名)	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
1 次の時代を託す人材の育成 プロジェクトを構成する先導的な計画事業	① ひろさき未来創生塾 (企画部 企画課)	予算額	524	2,437	1,510	2,290	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、塾生の企画事業が一部中止・延期となったものの、オンラインを活用するなど新たな展開を考え実践しました。 ・一期2年間の塾活動を通じて、まちづくり活動に自主的、積極的に関わる市民が育成されています。	成果	○
		決算額	778	1,289	708			R5方向性	その他
		特定財源	778	1,289	708				
		一般財源	0	0	0	0			
	② 地域産業魅力体験事業 (商工部 商工労政課) (商工部 産業育成課) (農林部 農政課) (企画部 広聴広報課)	予算額	7,600	7,748	7,046	2,148	活動結果 ・小学生から大学生まで、技術体験や施設見学、ワークショップ等により、様々な分野で地域の魅力を体験・学習できる機会が設けられています。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により一部事業の中止等はあったものの、地域の魅力に愛着や関心を持つ人材が増加し、地元への定着や地元の未来を担う人材の育成等に一定の成果があったものと考えます。		成果
		決算額	7,203	6,507	5,605			R5方向性	維持
		特定財源	155	180	324				
		一般財源	7,048	6,327	5,281	0			
	③ 地域マネジメント人材育成プログラム構築事業 (企画部 企画課)	予算額	3,000	5,800	5,530	8,000	活動結果 ・まちなかキャンパスプロジェクトでは、オンラインを活用しながら延べ38社の事業に計61名の大学生が参加しました。 ・高校生まちづくりクラブSTEPでは、計39名の高校生が修了し、引き続き自身のプロジェクトの実践に向けて継続的に動いているメンバーもいます。 ・大学生と高校生の交流イベントでは、多くの高校生が参加し、まちなかにぎわい創出につながるような新たな可能性について意見を出し合うなど、若い人材が地域を自分事と捉えて学ぶ素地が生まれてきています。		成果
		決算額	2,998	5,280	5,330			R5方向性	維持
		特定財源	1,998	5,280	5,330				
		一般財源	1,000	0	0	0			
2 地域産業を支える人材の育成	④ 農業次世代人材投資事業 (農林部 農政課)	予算額	173,179	136,787	125,239	78,438	活動結果 ・新規就農者に農業次世代人材投資資金を交付するとともに、関係機関と連携し、経営等の課題解決に向けたサポートを実施することで、円滑な就農・定着が図られています。		成果
		決算額	146,640	142,300	114,852			R5方向性	維持
		特定財源	144,815	140,199	112,228				
		一般財源	1,825	2,101	2,624	0			
	⑤ ひろさき農業新規参入加速化事業 (農林部 農政課)	予算額	410	12,910	12,910	6,630	活動結果 ・関係機関で構成するひろさき農業総合支援協議会では、農業新規参入支援や補助労働力確保に連携して取り組んでいるほか、首都圏等の就業イベントに出展することで、本市で就農することの魅力発信が図られています。		成果
		決算額	410	445	1,386			R5方向性	維持
		特定財源	0	0	292				
		一般財源	410	445	1,094	0			
	⑥ 地元就職マッチング支援事業 (商工部 商工労政課)	予算額	22,131	9,262	14,026	24,268	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の影響により一部実績に結びつかなかった事業はあるものの、東京圏からの10名のUターン就職等を後押ししました。 ・地元企業に関する情報を、PR動画等を通じて時間や場所に関係なく入手できる仕組みを充実させ、2社4名の採用に繋がっています。		成果
		決算額	830	1,200	10,226			R5方向性	維持
		特定財源	400	900	4,650				
		一般財源	430	300	5,576	0			

プロジェクト名		(3) 地域を担うひとづくり							
No	事業名 (所管部課名)	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
2	⑦ 未来の弘前を支える人づくり支援事業 (商工部 商工労政課)	予算額	1,350	1,050	1,050	900	活動結果 ・市内事業所調査により課題等を把握し「地元企業魅力発進事業」を構築しました。 ・企業ガイドブックは、高校生等が就職先を検討する中で地元企業を知るツールとして活用されています。 ・認定職業訓練での建設業の若手労働者の技能習得と向上により、地元企業の担い手確保、人手不足の緩和につながっています。	成果	○
		決算額	1,278	1,011	1,028			R5方向性	維持
		特定財源	0	0	0				
		一般財源	1,278	1,011	1,028	900			
3	⑧ 小・中学校屋根改修事業 (教育委員会 学校整備課)	予算額	50,381	0	0	196,350	活動結果 ・老朽化している校舎及び屋内運動場の屋根を改修し、学習環境の改善を図ることが出来ました。	成果	○
		決算額	40,315	0	0			R5方向性	維持
		特定財源	30,100	0	0				
		一般財源	10,215	0	0	0			
	⑨ 小・中学校校舎等維持改修事業 (教育委員会 学校整備課)	予算額			122,471	116,708	活動結果 ・老朽化している学校設備の管理工事を行い、学習環境の改善や児童の安全確保を図ることができました。	成果	○
		決算額			124,143			R5方向性	拡充
		特定財源			0				
		一般財源			124,143				
	⑩ ICT活用教育推進事業 (教育委員会 学校整備課)	予算額	25,241	25,242	33,983	50,510	活動結果 ・令和元年度に国のGIGAスクール構想に基づき、児童生徒1人1台端末の配備を当初の計画より前倒して進めました。 ・この結果、ICTを取り入れた授業づくり等が急速に進展し、令和3年度にはICT支援員を増加させる等、児童生徒や教員の日常的なICTの利活用を側面から支援しています。	成果	◎
		決算額	20,185	23,436	33,983			R5方向性	維持
		特定財源	0	0	0				
		一般財源	20,185	23,436	33,983	0			
4	⑪ 文化財施設公開事業 (教育委員会 文化財課)	予算額	250	250	0	0	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の影響で休館期間があったものの、対策を徹底し公開武家住宅、瑞楽園、旧藤田家住宅等の公開と文化財に触れるイベントを開催しました。 ・市民の文化財保護意識の醸成に向けた文化財講座や出前講座を開催しました。	成果	○
		決算額	249	249	0			R5方向性	維持
		特定財源			0				
		一般財源	249	249	0	0			
⑫ 史跡等公開活用事業 (教育委員会 文化財課)	予算額	2,500	2,600	700	3,486	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった大規模イベント等があるものの、感染症対策を講じて小・中学生を中心に事業を実施し、文化遺産や郷土への愛着と文化財保護への理解を促進できたと考えています。	成果	○	
	決算額	2,600	1,999	700			R5方向性	維持	
	特定財源	1,250	934	350					
	一般財源	1,350	1,065	350	0				
⑬ 無形民俗文化財用具修理事業 (教育委員会 文化財課)	予算額	118	135	275	214	活動結果 ・伝承団体の要望に応じて、無形民俗文化財の伝承活動に必要な用具の新調や修理をすることができました。	成果	○	
	決算額	108	134	275			R5方向性	維持	
	特定財源			0					
	一般財源	108	134	275	0				
⑭ れんが倉庫美術館等管理運営事業 (都市整備部 都市計画課)	予算額	1,992,808	156,209	157,184	156,959	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、来館者数が当初想定を下回っているものの、展覧会の会期や関連イベント内容の見直しを行いながら指定管理業務を実施しています。 ・市民等に対して、併設するスタジオ等の利用方法を周知して稼働率の向上に努めるなど、文化芸術活動の推進にも貢献しています。	成果	○	
	決算額	1,950,838	207,495	192,373			R5方向性	維持	
	特定財源	1,604,296	60,212	4,321					
	一般財源	346,542	147,283	188,052	0				
計画事業合計 (計画事業の総合評価)		予算額	2,279,492	360,430	481,924	646,901			
		決算額	2,174,432	391,345	490,609	0			
		特定財源	1,783,792	208,994	128,203	0			
		一般財源	390,640	182,351	362,406	900			

プロジェクト名 (4)つながる・支える地域コミュニティ										
総合評価 (ロジックモデル)										
インパクト		アウトカム		アウトプット			インプット			
目指す姿	総合評価	指標・成果	個別評価	総合評価	取組内容	個別評価	事業	成果		
つながる・支える地域コミュニティ	B	・町会加入率 基準値 74.6% 実績値 73.4% 目標値 74.6%	△	○	<1 町会のつながりづくり> ・町会と行政の協働により、町会の住民同士の結びつきや担い手対策などの取組を推進します。	◎	1) いいね！町会発信事業	○		
		・町会活性化支援補助金を活用して実施した事業数(累計) 基準値 10件 実績値 46件 目標値 110件	○				<2 市民主体の地域づくり> ・地域が結束する機会を支援したり、地域でさまざまな活動を行う場を整えるなど、市民力を活かした地域づくりを推進します。	○	2) 町会活性化支援事業	○
									3) 町会担い手育成事業	◎
									4) エリア担当制度	◎
					5) 市民参加型1%システム支援事業	○				
		・市民参加型まちづくり1%システム支援事業における新規事業の採択数 基準値 27件 実績値 15件 目標値 30件	△		<3 地域の支え合い> ・子どもの教育から高齢者の社会参加まで、地域全体で支え合う環境を整えます。	○	6) ひろさき未来創生塾(再掲)	○		
							7) 学びのまち情報提供事業	○		
							8) 公民館活動等活性化アドバイザー	○		
							9) 子どもの活動推進事業	○		
		・学校や地域の子どもたちの活動に協力した人の割合 基準値 26.4% 実績値 24.6% 目標値 31.6%	△				10) 自主防災組織育成支援事業	○		
							11) 教育自立圏構築推進事業	○		
							12) 放課後子ども教室事業	○		
							13) 高齢者介護予防運動教室事業(再掲)	○		
		【定性評価】 ・町会活性化支援補助金を活用した町会から、「今まで町会活動に参加していなかった人が、補助金を活用して実施した新たなイベントに参加したことで、町会の顔見知りが増え、町会活動に参加してくれるようになった」などの声が聞かれました。 ・高齢者ふれあい居場所づくり事業で設置された、高齢者の交流を図る「居場所」を利用する方から、「気軽に仲間と話をできる場が近所にできうれしい」「自宅に一人でいる時間が減った」などの声が聞かれました。	○				14) 高齢者ふれあい居場所づくり事業(再掲)	○		
							15) 民生委員等活動支援事業	○		
							16) 地域共生社会実現サポート事業	◎		

※アウトカムの総合評価 A:十分達成された。 B:概ね達成された。 C:あまり達成されなかった。 D:達成されなかった。

プロジェクト名 (4)つながる・支える地域コミュニティ

後期基本計画の策定に向けた前期基本計画(3か年分)の総括

後期基本計画策定のための市民ワークショップ及び各種団体からの意見、提案等

<2 市民主体の地域づくり>
 ・弘前市まちづくり1%システム審査委員会から、「自立支援も大事ではないか。1%システムはあくまでも事業を始める叩き台であり、いずれは自立して事業を継続されると思うが、協賛してくれる企業などが必要になると思う。団体でなかなか協賛してくれる企業を見つけるのが困難なところも出て来ると想定されるため、審査会でも何かしらのアドバイスも必要ではないか」など、申請団体の自立及び地元企業との協働に関する意見が出されました。

※参考 令和4年度の事中評価

<1 町会のつながりづくり>
 ・町会担い手育成事業では、令和3年度までモデル町会として取り組んだ小比内町会での成果を踏まえ、今年度は一町田町会を対象として、若い世代を中心とした活動が開始できるよう、弘前大学と連携して支援を行うこととしています。

<2 市民主体の地域づくり>
 ・市民参加型まちづくり1%システム支援事業では、全体の申請件数、新規の申請件数が昨年度を上回るペースとなっています。すでに採択されている事業については、感染対策を講じながら実施しています。
 ・ひろさき未来創生塾では、第二期生が企画立案した事業を今年度本格的に実践する予定としており、地域の活性化を考え、一緒に活動できる仲間集めを行いながら、企画実施に向けて取り組んでいます。

<3 地域の支え合い>
 ・高齢者ふれあい居場所づくり事業では、新規の「居場所」登録を増やすため、周知活動を行い、生活支援コーディネーターと協力しながら、登録数の増加を図っています。
 ・地域共生社会実現サポート事業では、子ども居場所づくり支援ネットワーク会議を1回開催したほか、子ども居場所づくり実践研修会の開催や子ども居場所マップの作成などに向け、予定通り事業は進捗しています。

アウトカム

アウトカムの総括(3か年)

・△のプロジェクト指標のうち、「町会加入率」は微減にとどまっていることから、「町会活性化支援補助金を活用した事業数」と定性評価が○のため、総合評価はBとします。
 ・「町会加入率」の実績値は、若干低下しているものの、各町会、町会連合会及び本市が協働で加入を推進したことで、堅調に推移しています。
 ・各地域においては町会を中心に様々な分野で活発に地域活動が実践されています。コミュニティ・スクールの枠組みも活用しながら、行政や警察等と協働した取組も積極的に進められており、本リーディングプロジェクトは、地域の安全・安心の向上や地域住民のつながりの強化に大きく寄与しています。
 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、町会活動やまちづくり1%システム支援補助金採択事業などの活動が大きく制限されましたが、一部においてはオンラインなどのデジタル化を進めて活動する動きも生まれました。

指標・目標値の妥当性

・プロジェクト指標「町会活性化支援補助金を活用した事業数」及び「市民参加型まちづくり1%システム支援事業における新規事業の採択数」は、個別事業の成果を求めるレベルの指標(アウトプット指標)に留まっており、より上位の成果指標(アウトカム指標)を設定する必要があります。

アウトプット

インプット

アウトカムに寄与したこと・効果があったこと(成果)

<1 町会のつながりづくり>
 ・町会の担い手や参加者不足という課題を解決するため、令和2年度から小比内町会と本市、弘前大学が町会担い手育成事業に協働で取り組み、令和3年度には新たな実践として「子どもねぶた町内運行」を行いました。総勢約100名がねぶた運行に参加したほか、沿道でも多くの地域の方がねぶたを楽しむ様子が見られるなど、コミュニティの活性化や担い手育成という点で大きな成果を上げました。

<2 市民主体の地域づくり>
 ・市民参加型まちづくり1%システム支援事業では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、採択件数は令和元年度71件、令和2年度52件、令和3年度46件と、市民力を生かした地域づくりを展開することができました。

<3 地域の支え合い>
 ・すべての市立小・中学校にコミュニティ・スクールが導入され(48校)、地域における通学路の合同点検や除雪活動、小学校への地域人材の講師派遣など、学校・家庭・地域の協働による学校運営が行われ、プロジェクト指標「学校や地域の子どもの活動に協力した人の割合」の増加に効果がありました。

課題となったこと・効果がなかったこと(課題)

<1 町会のつながりづくり>
 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、町会活性化支援事業による補助金交付は、令和元年度の25件から、令和2年度は1件、令和3年度10件と、補助金を活用する町会が減ったため、感染対策を講じて町会活動は実施できることを周知していく必要があります。

<2 市民主体の地域づくり>
 ・学びのまち情報提供事業では、職場体験が可能な団体・企業等の情報を本市ホームページに掲載しましたが、利用者はなかったため、より一層の周知が必要です。
 ・自主防災組織育成支援事業では、新型コロナウイルス感染症の影響、高齢化等で活動できない自主防災組織もあったため、自主防災組織に対する伴走型の支援が必要です。
 ・市民参加型まちづくり1%システム支援事業は、活用団体の固定化や、指標としている新規事業の採択数の伸び悩みが課題となっています。

<3 地域の支え合い>
 ・民生委員等活動支援事業について、本市の民生委員の充足率は、全国及び県よりも低く推移し、担い手不足が深刻化している状況であり、民生委員の不在は地域福祉にとって大きな課題となっています。

後期基本計画における方向性及び見直し内容

施策・アウトカム(指標・成果)の方向性、見直し内容

・地域住民による自主的な活動の実施により、地域の結束力強化や共助の意識を高め、安心して暮らすことのできる地域コミュニティの形成、そして地域防災力の向上が必要であることから、引き続き、後期基本計画においても地域コミュニティの維持・活性化に向けた取組を推し進めていきます。
 ・プロジェクト指標については、適切な指標を検討し、新たに設定します。

アウトプット(取組内容)・インプット(計画事業)の方向性、見直し内容

<1 町会のつながりづくり>
 ・町会加入に向けたPR支援、町会活性化に向けた補助金交付、町会の運営支援などの取組をこれまで実施してきたことで、プロジェクト指標「町会加入率」は微減にとどまっています。さらに加入率を上昇させるためには、これまでの取組に加え、加入率の低い若い世代を対象とした効果的な取組が必要です。

<2 市民主体の地域づくり>
 ・市民参加型まちづくり1%システム支援事業は、平成23年度に創設されて以来(本年は12年目)、市民活動を支援する制度として広く市民に定着しており、引き続き、市民力による魅力あるまちづくりを推進するため、新規活用団体の開拓・発掘を行いながら、本事業を継続していきます。

<3 地域の支え合い>
 ・いずれの事業も地域の支え合いには必要な事業であることから、引き続き、後期基本計画においても取り組んでいきます。

二次評価

プロジェクト名 (4)つながる・支える地域コミュニティ

アウトカム

「対象者(受益者)」
 ・地域住民
 ・学生、子ども、コミュニティ、事業者、議会、執行機関

施策により「期待する成果」は何か
 ・地域コミュニティの基盤である町会組織が維持されるとともに充実した活動が継承され、人と人がつながり、支え合うまちづくりが図られます。
 ・地域コミュニティ活動が活発に行われ、地域の結びつきが強まり、新たな担い手の育成や地域防災力の向上などが図られます。
 ・多様化・複雑化する地域課題に対し、地域全体できめ細かな支援や取組が行われ、安心な市民生活の実現が図られます。

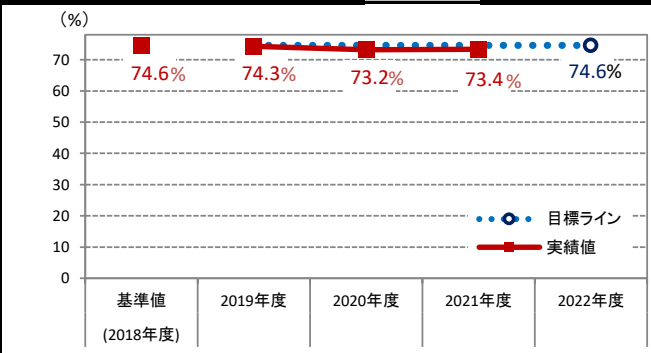
■定性評価

評価内容	定性評価
<p><1 町会のつながりづくり> ・町会活性化支援補助金を活用した町会から、「今まで町会活動に参加していなかった人が、補助金を活用して実施した新たなイベントに参加したことで、町会の顔見知りが増え、町会活動に参加してくれるようになった」など、補助金を活用した町会イベントによって人と人の繋がりが生まれたという声が聞かれました。 ・市内327町会を対象とした町会に関するアンケートでは、エリア担当制度について「この制度は大変良いので、今後も続けてほしい。1町会での要望が困難なことでも直接関係部局へ伝達し、迅速に解決してもらって助かっている」「年度が進むにつれて役割を理解し、協力的になっていて大変良い」など、制度を評価する意見が出されました。</p> <p><2 市民主体の地域づくり> ・1%システム支援補助金採択団体から、「地域の環境整備を、地域住民と一緒に実施でき、地域の良さを再認識してもらった良い機会となった」「ツアーを実施することで、地域の伝統行事をうまく発信することができた」といった声が聞かれました。 ・自主防災組織を対象としたアンケートでは、「新型コロナウイルス感染症やメンバーの高齢化、予算不足などにより、活動できない状況が続いている」「弘前は災害が少ないため、地域住民に対し防災訓練の必要性・重要性を伝えることに苦慮している」など、自主防災組織の運営に課題を感じている意見が出されました。</p> <p><3 地域の支え合い> ・高齢者ふれあい居場所づくり事業で設置された、高齢者の交流を図る「居場所」を利用する方から、「気軽に仲間と話をできる場が近所にできてうれしい」「自宅に一人での時間が減った」などの声が聞かれ、「居場所」が一つのコミュニティとして機能し、支え合いの地域づくりに貢献していることが分かりました。 ・地域共生社会実現サポート事業の取組として実施した、洋服などを無料でもらえる「おさがり会」では、「子どもはすぐに成長して服のサイズが変わるので、おさがり会はとても助かる」「とても良い企画なので、年1回だけでなく複数回実施してほしい」といった声が聞かれました。</p>	○

※評価 ◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。

■定量評価(プロジェクト指標①)

指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2018年度	2019年度 (2019年度)	2020年度 (2020年度)	2021年度 (2021年度)	2022年度 (取得年度)	2022年度	(方向)	
町会加入率(%)	74.6	74.3	73.2	73.4		74.6	→	△
	—	△	△	△		—		



※評価 ◎:目標を上回って推移している。
 ○:目標には達していないが改善の方向で推移している。
 △:基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)		後期基本計画での方向性	
町会は、地域コミュニティの中心的な役割を担っていることから、同指標を後期基本計画においても指標として設定します。目標値は、今年の実績値にあわせ、見直しを行います。	指標	維持	引き下げ
	目標値		

プロジェクト名 (4)つながる・支える地域コミュニティ														
■定量評価(プロジェクト指標②)														
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価						
	2018年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)							
町会活性化支援補助金を活用して実施した事業数(累計)	10件	35件	36件	46件		217件	↑	○						
	—	○	○	○		—								
<p>※評価 ◎: 目標を上回って推移している。 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。 △: 基準値より悪化の方向で推移している。</p> <table border="1"> <tr> <td>後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)</td> <td>後期基本計画での方向性</td> </tr> <tr> <td>同指標は、個別事業の成果を求める指標にとどまっていることから、「この補助金を活用して町会がいかに活性化したか」を測る新たな指標設定を検討します。</td> <td>指標 変更</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値 —</td> </tr> </table>									後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性	同指標は、個別事業の成果を求める指標にとどまっていることから、「この補助金を活用して町会がいかに活性化したか」を測る新たな指標設定を検討します。	指標 変更		目標値 —
後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性													
同指標は、個別事業の成果を求める指標にとどまっていることから、「この補助金を活用して町会がいかに活性化したか」を測る新たな指標設定を検討します。	指標 変更													
	目標値 —													
■定量評価(プロジェクト指標③)														
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価						
	2018年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)							
市民参加型まちづくり1%システム支援事業における新規事業の採択数(4年間の平均値)	27件	27件	18件	15件		30件	↑	△						
	—	○	△	△		—								
<p>※評価 ◎: 目標を上回って推移している。 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。 △: 基準値より悪化の方向で推移している。</p> <table border="1"> <tr> <td>後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)</td> <td>後期基本計画での方向性</td> </tr> <tr> <td>同指標は、個別事業の成果を求める指標にとどまっていることから、「この補助金を活用して市民主体の地域づくりがいかに進んだか」を測る新たな指標設定を検討します。</td> <td>指標 変更</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値 —</td> </tr> </table>									後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性	同指標は、個別事業の成果を求める指標にとどまっていることから、「この補助金を活用して市民主体の地域づくりがいかに進んだか」を測る新たな指標設定を検討します。	指標 変更		目標値 —
後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性													
同指標は、個別事業の成果を求める指標にとどまっていることから、「この補助金を活用して市民主体の地域づくりがいかに進んだか」を測る新たな指標設定を検討します。	指標 変更													
	目標値 —													
■定量評価(プロジェクト指標④)														
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価						
	2018年度	2019年度(2020年度)	2020年度(2021年度)	2021年度(取得年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)							
学校や地域の子どもの活動に協力した人の割合(%)	26.4	25.1	22.5	24.6		31.6	↑	△						
	—	△	△	△		—								
<p>※評価 ◎: 目標を上回って推移している。 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。 △: 基準値より悪化の方向で推移している。</p> <table border="1"> <tr> <td>後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)</td> <td>後期基本計画での方向性</td> </tr> <tr> <td>同指標は「地域の支え合い」を数値化できる指標の一つであることから、後期基本計画においても指標として設定します。コロナ禍で実績値が低下していることから、目標値を引き下げます。</td> <td>指標 維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値 引き下げ</td> </tr> </table>									後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性	同指標は「地域の支え合い」を数値化できる指標の一つであることから、後期基本計画においても指標として設定します。コロナ禍で実績値が低下していることから、目標値を引き下げます。	指標 維持		目標値 引き下げ
後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性													
同指標は「地域の支え合い」を数値化できる指標の一つであることから、後期基本計画においても指標として設定します。コロナ禍で実績値が低下していることから、目標値を引き下げます。	指標 維持													
	目標値 引き下げ													

プロジェクト名 (4)つながる・支える地域コミュニティ

アウトプット インプット

No	事業名 (所管部課名)	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
1 町会のつながりづくり プロジェクトを構成する先導的な計画事業	① いいね！町会発信事業 (市民生活部 市民協働課)	予算額			99	0	活動結果 ・町会への加入や参加を促すことを目的とした大学生による町会PR動画制作は、2021年度中に完成し、動画投稿サイト等で公開しており、再生回数は徐々に伸びています。 ・パネル展示等による町会加入促進キャンペーンを実施し、町会のPRを行いました。	成果	○
		決算額			99			R5方向性	維持
		特定財源			0				
		一般財源			99	0			
	② 町会活性化支援事業 (市民生活部 市民協働課)	予算額	3,006	3,006	5,030	7,192	活動結果 ・町会活性化支援補助金は、新型コロナウイルス感染症の影響により、活用する町会数は減ったものの、町会活動の活性化に一定の成果をあげました。 ・町会日より作成講座は、開催形式を変更したことにより、コロナ禍での町会活動支援が概ねできました。	成果	○
		決算額	1,761	406	3,697			R5方向性	維持
		特定財源	0	0	0				
		一般財源	1,761	406	3,697	0			
	③ 町会担い手育成事業 (市民生活部 市民協働課)	予算額	192	315	344	274	活動結果 ・モデル町会の小比内町会において、若い世代を中心とした新たな町会活動の実施に向け、弘前大学と連携しながら支援し、「子どもねぶた運行」と「もちつき大会」の実施に至りました。 ・支援が若い世代の町会活動に繋がったため、モデルケースを普及展開させます。	成果	◎
		決算額	178	185	321			R5方向性	維持
		特定財源	0	0	0				
		一般財源	178	185	321	0			
④ エリア担当制度 (市民生活部 市民協働課)	予算額	1,107	697	697	697	活動結果 ・コロナ禍前に比べ、エリア担当職員の会議等への出席回数が約4割減となった一方、処理案件数は増加しており、町会の課題解決に向けた支援を実施できました。 ・2021年度には職員を増員し、町会加入を促すチラシ作成支援も行い、加入者増加に繋がった例もありました。	成果	◎	
	決算額	675	532	647			R5方向性	維持	
	特定財源	0	0	0					
	一般財源	675	532	647	0				
2 市民主体の地域づくり	⑤ 市民参加型まちづくり1%システム支援事業 (市民生活部 市民協働課)	予算額	30,563	30,563	30,680	30,529	活動結果 ・コロナ禍で事業の中止や規模縮小、オンラインへの切り替えなどで対応した事業もありましたが、多くの団体は感染対策を適切に講じながら事業を実施しており、主体的な活動が推進されています。 ・裾野を広げるための、「スタート部門」には5件採択されました。	成果	○
		決算額	21,894	11,078	11,302			R5方向性	維持
		特定財源	0	0	0				
		一般財源	21,894	11,078	11,302	0			
	⑥ ひろさき未来創生塾(再掲) (企画部 企画課)	予算額	524	2,437	1,510	2,290	活動結果 ・コロナ禍で塾生の企画した事業が中止・延期となったものもありましたが、オンラインツールを活用するなど、実施可能な新たな展開を考えて実践することができました。 ・一期2年間の塾活動を通じて、まちづくり活動に自主的、積極的に関わる市民が育成されています。	成果	○
		決算額	778	1,289	708			R5方向性	その他
		特定財源	778	1,289	708				
		一般財源	0	0	0	0			
	⑦ 学びのまち情報提供事業 (教育委員会 生涯学習課)	予算額	75	75	75	75	活動結果 ・小・中・高生が仕事に打ち込む大人の姿を目にすることができる職業体験を推進するため、市内35の団体・企業の職場体験等の情報を公開したほか、学校活動、社会貢献活動等に活かせる情報として弘前人物志等の情報を収集し、公開しました。	成果	○
		決算額	42	0	0			R5方向性	維持
		特定財源	0	0	0				
		一般財源	42	0	0	0			
⑧ 公民館活動等活性化アドバイザー (教育委員会 生涯学習課 (中央公民館))	予算額	504	504	504	504	活動結果 ・対象モデル地区での調査・分析の結果、各地区特有の課題や特徴が存在していることがわかりました。また、これまで調査した結果を基に地区公民館等関係者を対象に研修を実施し、地域の特徴や課題について共通認識を深めました。	成果	○	
	決算額	239	267	244			R5方向性	維持	
	特定財源	0	0	0					
	一般財源	239	267	244	0				

プロジェクト名		(4)つながる・支える地域コミュニティ							
No	事業名	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
2	⑨ 子どもの活動推進事業 (教育委員会 生涯学習課 (中央公民館))	予算額	1,700	1,700	1,600	1,600	活動結果 ・地域団体が子どものために実施する事業に助成する本事業は、コロナ禍で申請件数が減少していますが、2020年度と2021年度の比較で、申請件数が増加していることから、本事業の定着と新型コロナウイルス感染症の状況次第で好転すると判断します。	成果	○
		決算額	967	145	260			R5方向性	維持
		特定財源	0	0	0				
		一般財源	967	145	260	0			
10	自主防災組織育成支援事業 (総務部 防災課)	予算額	6,000	4,800	4,100	3,400	活動結果 ・3か年を通して、コロナ禍による町会活動の停滞により、目標としている自主防災組織の結成数に届きませんでしたが、組織結成を検討している町会や、結成済みの団体に対して、出前講座や説明会を積極的に開催するなど、様々な支援策を講じてきました。	成果	○
		決算額	2,400	600	1,214			R5方向性	維持
		特定財源	2,400	600	1,214				
		一般財源	0	0	0	0			
11	教育自立圏構築推進事業 (教育委員会 学校整備課)	予算額	5,744	5,156	4,872	4,872	活動結果 ・コミュニティ・スクールは、2021年度に全ての市立小・中学校で導入されました。 ・各学校では平均年4回、学校運営協議会が行われており、内容は学校支援にとどまらず、地域内の組織の垣根を超えた話し合いの場としても活用されています。	成果	○
		決算額	4,016	3,762	3,907			R5方向性	維持
		特定財源	0	0	0				
		一般財源	4,016	3,762	3,907	0			
12	放課後子ども教室事業 (教育委員会 生涯学習課)	予算額	1,274	1,199	1,199	1,199	活動結果 ・コロナ禍で予定より実施回数は減少しましたが、2021年度には感染対策を講じ実施回数等を再び増加させました。 ・本事業は、子どもの居場所づくり以外に、体験活動の場や世代間交流の場として地域コミュニティの活性化にも寄与しています。	成果	○
		決算額	628	240	554			R5方向性	維持
		特定財源	319	125	386				
		一般財源	309	115	168	0			
13	高齢者介護予防運動教室事業(再掲) (福祉部 介護福祉課)	予算額	39,367	42,402	47,681	49,819	活動結果 ・2020年度はコロナ禍で、高齢者健康トレーニング教室、筋力向上トレーニング教室の延べ利用者数は前年度を下回りましたが、2021年度は増加傾向にあり、ヒロロの教室に集中していた利用を分散しつつ、各教室を開催することで介護予防を推進できました。	成果	○
		決算額	36,595	35,718	43,692			R5方向性	拡充
		特定財源	28,178	27,502	33,642				
		一般財源	8,417	8,216	10,050	0			
14	高齢者ふれあい居場所づくり事業(再掲) (福祉部 介護福祉課)	予算額	1,335	1,435	1,420	1,470	活動結果 ・年度内に53カ所の居場所登録数を目標としていましたが、目標に達することなく48カ所の登録となっています。 ・新たな居場所の開設は、事業開始時と比較し難しい状況ですが、生活支援コーディネーターと協力し新たな居場所の登録を目指します。	成果	○
		決算額	470	831	1,019			R5方向性	拡充
		特定財源	361	639	784				
		一般財源	109	192	235	0			
15	民生委員等活動支援事業 (福祉部 福祉総務課)	予算額	25,924	24,961	29,090	30,686	活動結果 ・コロナ禍でも民生委員の活動により、十分な地域福祉活動が図られています。 ・民生委員協力員制度が活用されており、民生委員の欠員解消に向けた取組を行っています。 ・2021年度には活動負担軽減のため活動費を増額しました。	成果	○
		決算額	24,820	29,465	29,138			R5方向性	維持
		特定財源	21,413	26,305	22,964				
		一般財源	3,407	3,160	6,174	0			
16	地域共生社会実現サポート事業(再掲) (企画部 企画課)	予算額		500	500	500	活動結果 ・本事業により、こども食堂間のネットワーク強化やフードバンク活動、おさがり会等新たな地域の支え合いの仕組みづくりに大きな成果をあげました。 ・おさがり会などにボランティアとして関わる大学生や高齢者が増え、多世代交流の点でも成果をあげました。	成果	◎
		決算額		500	500			R5方向性	終了
		特定財源		0	0				
		一般財源		500	500	0			
計画事業合計 (計画事業の総合評価)		予算額	117,315	94,789	100,212	104,421			
		決算額	70,643	55,553	68,065	0			
		特定財源	53,449	30,155	36,734	0			
		一般財源	38,607	25,398	31,331	0			

プロジェクト名 (5) 2025年に向けた早期対策の推進

総合評価 (ロジックモデル)

インパクト		アウトカム		アウトプット		インプット		
目指す姿	総合評価	指標・成果	個別評価	総合評価	取組内容	個別評価	事業	成果
2025年に向けた早期対策の推進	C	・公共交通の利用者数 基準値 4,606千人 実績値 3,411千人 目標値 4,752千人	△	○	<1 超高齢社会に対応した安心の住環境の整備> ・高齢者も外出・社会参加しやすい都市の形成を進め、公共交通の利便性向上を図るほか、空き家対策や雪対策に取り組みます。	○	1) 地域公共交通ネットワーク再構築事業	○
							2) まちなかお出かけパス事業	○
							3) 空き家・空き地対策推進事業	○
							4) 除排雪事業(再掲)	○
		・中心市街地の空き店舗率 基準値 8.8% 実績値 14.8% 目標値 6.5%	△		<2 地域消費活動の維持・活性化> ・地域経済の衰退を防ぐため、商業・観光の振興、まちなかの賑わいの創出等による消費活動の維持・活性化を図ります。	○	5) 商人育成・商店街活性化支援事業	○
							6) 創業・起業支援拠点運営事業	◎
		・中心市街地の通行量 基準値 15,376人 実績値 10,918人 目標値 23,000人	△		<3 担い手確保と最新技術の活用> ・各分野の担い手不足に対応するため、担い手の育成・自立支援などに取り組むとともに、AIなどの最新技術による産業の高効率化や行政サービスの低下防止を図ります。	○	7) 津軽圏域DMO推進事業	○
							8) 津軽塗技術保存伝承事業	○
		・求人充足率(弘前公共職業安定所管内) 基準値 25.5% 実績値 25.3% 目標値 30.0%	△			9) 多様な人材活躍応援事業(再掲)	○	
						10) 自立相談支援事業	○	
		【定性評価】 ・まちなかお出かけパスの利用者からは、「通院などの際に利用しており助かっている」ので、毎年実施してほしいとの声が多くあります。 ・創業支援に係る情報交換会では、「青森県内の他の自治体と比べて、弘前市の創業に関する支援制度は豊富で、創業数も増えている」という評価をいただきました。 ・VRを活用したりんごの剪定学習支援システムについて、関係団体から「これまでになかった、繰り返し議論し学習できる空間が構築されつつあることは、将来に向けて大きな可能性を感じている」「農業に関心を持ってもらう入口として、これまで農業に接点の無かった方々に対し、VR技術によって農業現場を体験できるような環境づくりも今後必要ではないか」という意見をいただきました。	○			11) 生活困窮者就労準備支援事業	○	
						12) りんご産業イノベーション推進事業	○	
						13) 製造業IT導入支援事業	○	
						14) AI・IoT・RPA等先進技術導入検討事業	○	

※アウトカムの総合評価 A:十分達成された。 B:概ね達成された。 C:あまり達成されなかった。 D:達成されなかった。

プロジェクト名 (5) 2025年に向けた早期対策の推進

後期基本計画の策定に向けた前期基本計画(3か年分)の総括

後期基本計画策定のための市民ワークショップ及び各種団体からの意見、提案等	
<p><1 超高齢社会に対応した安心の住環境の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・弘前市空き家等対策協議会からは、「空き家を解体すると固定資産税が高くなるから放置しているというケースも聞くので、何かしらの基準を設けて、固定資産税を高くするなどの仕組みもあればいいのではないか」という意見が出されました。 ・弘前市地域公共交通会議からは、「公共交通機関を活用してのコンパクトシティを目指す場合には、弘南鉄道と弘南バスを連動して活用する利便性を高める必要がある。鉄道とバスを乗り継いだ際に割引かれる仕組みや、鉄道やバスで共有して使えるセット回数券などの導入を検討いただきたい」という意見が出されました。 ・後期基本計画策定のための市民ワークショップでは、「空き家を若い世代から高齢者までが集う多世代交流の場として活用する“老若シェアハウス”の実施について提案がありました。 	
※参考 令和4年度の事中評価	
<p><1 超高齢社会に対応した安心の住環境の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかお出かけバス事業については、今年4月1日から募集を行ったところ、598名の応募があり、抽選で500名(免許返納優先28名含む)を決定し、5月から利用を開始しています。100円での利用区間について、弘南鉄道大鰐線の全区間利用できるよう拡充するなど、弘南鉄道の利用促進にも取り組んでいます。 ・除排雪事業では、昨年度の事業検証や除排雪事業者へアンケートを進め、今冬事業へ反映し、冬期間の円滑な道路交通や良好な市民生活の確保を図ります。 <p><2 地域消費活動の維持・活性化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金交付等により新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者の売上回復に向けた取組を支援としています。 ・今年4月19日に(一社)ClanPEONY津軽が、「候補DMO(観光地域づくり候補法人)」から、目標としていた観光庁の定める「登録DMO(登録観光地域づくり法人)」として登録されました。 <p><3 担い手確保と最新技術の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得チャレンジ支援事業費補助金は、5月末現在で1件の申請を受け付けており、予定通り進捗しています。高齢者・障がい者雇用促進セミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえながら、開催時期等を検討しています。 	



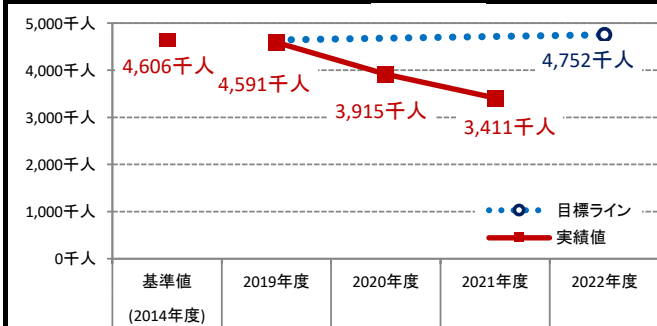
後期基本計画における方向性及び見直し内容

プロジェクト名	(5) 2025年に向けた早期対策の推進	
施策・アウトカム(指標・成果)の方向性、見直し内容	<p>・目標の達成には至りませんでしたが、本リーディングプロジェクトで目指す「2025年」は後期基本計画の計画期間中であることから、後期基本計画のリーディングプロジェクトとしては設定しません。</p> <p>・ただし、団塊の世代が75歳以上になる2025年の人口構造の変化については、課題の一つとして後期基本計画の序章で取り上げ、リーディングプロジェクト「くらし」「いのち」「ひと」に計画事業の一部を統合するほか、各施策のPDCAサイクルの中でも取組を進めていきます。</p>	
アウトプット(取組内容)・インプット(計画事業)の方向性、見直し内容	同左	

二次評価	
------	--

アウトカム(個別評価)		■定性評価	
「対象者(受益者)」	施策により「期待する成果」は何か	評価内容	定性評価
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 ・公共交通事業者 ・空き家・空き地所有者、周辺の住民 ・創業希望者、中小企業者 ・観光客 ・伝統文化保存団体 ・求職者 ・りんご生産者、流通加工事業者 	<p>・高齢者も安心して暮らしやすい住環境が整い、高齢者福祉に寄与するとともに、市民や観光客なども活動しやすい都市の形成が図られ、地域活力の向上が期待されます。</p> <p>・市民や観光客の活発な消費活動により、経済の好循環が生まれ、地域経済の維持・活性化が期待されます。</p> <p>・多様な担い手の活躍や最先端技術の導入により、地域経済の活力と競争力及び行政サービスが向上します。</p>	<p><1 超高齢社会に対応した安心の住環境の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかお出かけバスの利用者からは、「通院などの際に利用しており助かっているの、毎年実施してほしい」との声が多数あります。 <p><2 地域消費活動の維持・活性化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・創業支援に係る情報交換会では、「青森県内の他の自治体と比べて、弘前市の創業に関する支援制度は豊富で、創業数も増えている」という評価をいただきました。 <p><3 担い手確保と最新技術の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・VRを活用したりんごの剪定学習支援システムについて、関係団体から「これまでになかった、繰り返し議論し学習できる空間が構築されつつあることは、将来に向けて大きな可能性を感じている」「農業に関心を持ってもらう入口として、これまで農業に接点の無かった方々に対し、VR技術によって農業現場を体験できるような環境づくりも今後必要ではないか」という意見をいただきました。 	○
※評価 ◎: 大いに評価できる。 ○: 概ね評価できる。 △: 課題がある。			

■定量評価(プロジェクト指標①)								
指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2014年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)	
公共交通の利用者数(千人)	4,606千人	4,591千人	3,915千人	3,411千人		4,752千人	↑	△
	—	△	△	△		—		



※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
 ○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
 △: 基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性
本指標は、空き家・空き地対策推進事業及び除排雪事業の結果が反映されないため、すでに市民意識アンケートで取得している「住みやすさに対する市民の満足度」に変更することが妥当です。	指標 変更
	目標値 —

プロジェクト名 (5) 2025年に向けた早期対策の推進

■ 定量評価(プロジェクト指標②)

指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2017年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)	
中心市街地の空き店舗率(%)	8.8%	11.0%	13.8%	14.8%		6.5%	↓	△
	—	△	△	△		—		

※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
△: 基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性
本指標は、「地域経済の活性化」を数値化できる指標の一つであることから、後期基本計画においても指標として設定します。コロナ禍で実績値が大幅に悪化していることから、目標値を引き下げます。	指標 維持 目標値 引き下げ

■ 定量評価(プロジェクト指標③)

指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2017年度	2019年度(2019年度)	2020年度(2020年度)	2021年度(2021年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)	
中心市街地の通行量(人)	15,376人	17,472人	11,861人	10,918人		23,000人	↑	△
	—	◎	△	△		—		

※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
△: 基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性
本指標は、「地域経済の活性化」を数値化できる指標の一つであることから、後期基本計画においても指標として設定します。コロナ禍で実績値が大幅に悪化していることから、目標値を引き下げます。	指標 維持 目標値 引き下げ

■ 定量評価(プロジェクト指標④)

指標名	基準値	実績値一覧				目標値		3か年での指標の定量評価
	2017年度	2019年度(2018年度)	2020年度(2019年度)	2021年度(2020年度)	2022年度(取得年度)	2022年度	(方向)	
求人充足率(弘前公共職業安定所管内)	25.5%	26.1%	25.5%	25.3%		30.0%	↑	△
	—	○	○	△		—		

※評価 ◎: 目標を上回って推移している。
○: 目標には達していないが改善の方向で推移している。
△: 基準値より悪化の方向で推移している。

後期基本計画での指標の方向性の理由 (現指標を達成できていない場合はその理由も含む)	後期基本計画での方向性
本指標は、「担い手の確保」を数値化できる指標の一つであることから、後期基本計画においても指標として設定します。「就職売り手市場」の現在、本指標の実績値は下落傾向にあることから、目標値を引き下げます。	指標 維持 目標値 引き下げ

プロジェクト名 (5) 2025年に向けた早期対策の推進

アウトプット インプット

No	事業名 (所管部課名)	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
1 超高齢社会に対応した安心の住環境の整備 プロジェクトを構成する先導的な計画事業	① 地域公共交通ネットワーク再構築事業 (都市整備部 地域交通課)	予算額	5,578	4,579	4,475	4,783	活動結果 ・弘前市地域公共交通会議での協議を経て、路線バスから乗合タクシーへの切替など、持続可能な公共交通網の再構築を図りました。また、国庫補助金を活用して、地区住民に対して乗合タクシーの利便性をPRするなど、利用促進活動を実施しました。	成果	○
		決算額	2,392	2,827	2,065			R5方向性	拡充
		特定財源	0	0	433				
		一般財源	2,392	2,827	1,632				
	② まちなかお出かけパス (都市整備部 地域交通課)	予算額	10,131	8,331	9,387	9,364	活動結果 ・2020年度から、定員を200人から500人に拡大し、より多くの方に利用してもらい、利用者からの満足度も非常に高い事業となっています。 ・一方、抽選に外れた方から不満の声寄せられており、事業内容及び定員の見直しの検討が必要です。	成果	○
		決算額	8,389	7,996	8,131			R5方向性	拡充
		特定財源	1,015	0	0				
		一般財源	7,374	7,996	8,131				
	③ 空き家・空き地対策推進事業 (建設部 建築指導課)	予算額	13,332	13,433	13,981	28,099	活動結果 ・本事業により、3年間で45件の空き家・空き地が利活用され、77件の危険な空き家が解消されています。 ・総合的な取組を実施してきたことで、所有者が空き家を解体したり、措置を行う人も増えてきており、成果が出ています。	成果	○
		決算額	12,572	12,260	12,909			R5方向性	拡充
		特定財源	2,251	2,404	1,820				
		一般財源	10,321	9,856	11,089				
④ 除排雪事業(再掲) (建設部 道路維持課)	予算額	800,000	1,400,000	1,950,000	1,000,000	活動結果 ・市民が快適な雪国生活を送るため、行政による除排雪作業をはじめ、地域と行政が連携した雪対策を進めたことにより、冬期間の円滑な道路交通や良好な市民生活の確保が図られました。	成果	○	
	決算額	688,346	1,394,798	1,935,380			R5方向性	維持	
	特定財源	104,089	188,780	307,098					
	一般財源	584,257	1,206,018	1,628,282	0				
2 地域消費活動の維持・活性化	⑤ 商人育成・商店街活性化支援事業 (商工部 商工労政課)	予算額		200	200	200	活動結果 ・「理想の商店街像」「新しいプレーヤーの掘り起こし」「新美術館の活用」といったテーマを設定し、意見交換を通じて、商店街の若手経営者間でのネットワーク形成、商店街の取組や課題の共有に繋がりました。	成果	○
		決算額		0	7			R5方向性	維持
		特定財源		0	0				
		一般財源		0	7				
⑥ 創業・起業支援拠点運営事業 (商工部 産業育成課)	予算額	7,755	9,742	9,742	9,742	活動結果 ・コロナ禍で2020年度の創業起業件数は減少したものの、ひろさきビジネス支援センターのメディアへの露出増加による認知度向上や相談体制の拡充等により、2021年度の創業起業件数はセンター開所以来、過去最高となり、3か年の実績は135件となりました。	成果	◎	
	決算額	7,753	9,713	9,780			R5方向性	維持	
	特定財源	7,564	0	0					
	一般財源	189	9,713	9,780					
⑦ 津軽圏域DMO推進事業 (観光部 国際広域観光課)	予算額	570	6,560	6,260	15,970	活動結果 ・2019年度からの3年で組織の構想から立上げ、具体的な事業実施まで進め、観光カルテ作成や視察・勉強会の実施、観光コンテンツ体験、観光満足度調査により、当市や圏域自治体の観光資源の把握やPRに繋がりました。	成果	○	
	決算額	267	2,260	6,260			R5方向性	維持	
	特定財源	0	0	0					
	一般財源	267	2,260	6,260					
3 担い手確保と最新技術の活用	⑧ 津軽塗技術保存伝承事業 (教育委員会 文化財課)	予算額	850	850	850	800	活動結果 ・旧紺屋町消防屯所を津軽塗技術伝承拠点として活用し、後継者の育成や伝統技法の継承に努めました。 ・春と秋の発表会(2020年度はコロナ禍で中止)で、市民及び観光客に津軽塗作品や技術をPRできました。	成果	○
		決算額	652	624	606			R5方向性	維持
		特定財源	0	0	0				
		一般財源	652	624	606				

プロジェクト名		(5) 2025年に向けた早期対策の推進							
No	事業名	インプット				アウトプット			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	3か年の総括			
3 担い手確保と最新技術の活用 プロジェクトを構成する先導的な計画事業	⑨ 多様な人材活躍応援事業 (再掲) (商工部 商工労政課)	予算額	6,200	2,602	1,102	1,750	活動結果 ・資格取得チャレンジ事業費補助金では、2019年度の15件と比較すると2020年度は25件、2021年度は24件と申請者数は増えており、求職者の早期就職に一定の効果がありました。	成果	○
		決算額	392	1,236	1,609			R5 方向性	維持
		特定財源	261	0	0				
		一般財源	131	1,236	1,609				
	⑩ 自立相談支援事業 (福祉部 生活福祉課)	予算額	12,912	12,825	12,960	9,028	活動結果 ・コロナ禍の就労状況の変化により、2020年度、2021年度は新規相談件数が500件を上回り、支援プラン作成件数も増加しています。 ・相談者が抱えている問題や課題を評価・分析しニーズを把握して、生活困窮者への実効性のある包括的な支援に繋がっています。	成果	○
		決算額	12,532	12,838	12,779			R5 方向性	維持
		特定財源	9,399	9,627	9,584				
		一般財源	3,133	3,211	3,195				
	⑪ 生活困窮者就労準備支援事業 (福祉部 生活福祉課)	予算額	5,468	5,982	4,817	4,829	活動結果 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い支援対象者が減少しましたが、感染防止対策を図り就労準備セミナー、就労準備講座を実施し、支援者の就労に結び付けています。一般就労が困難な支援対象者に対して、支援することにより早期自立に繋がっています。	成果	○
		決算額	5,145	4,584	4,365			R5 方向性	維持
		特定財源	3,430	3,056	2,924				
		一般財源	1,715	1,528	1,441				
	⑫ りんご産業イノベーション推進事業 (農林部 りんご課)	予算額	40,863	41,939	38,815	37,511	活動結果 ・VR剪定学習支援システムは営農指導現場で活用できる水準に近づくとともに、農林水産省の動画サイトで取り上げられる等、全国から注目を集めているほか、AI摘果判断システムの実証開発など、新たな技術習得環境が整備されつつあり、地域実装に着実に繋がっていきます。	成果	○
		決算額	30,282	21,847	31,876			R5 方向性	維持
特定財源		14,967	10,891	15,466					
一般財源		15,315	10,956	16,410					
⑬ 製造業IT導入支援事業 (商工部 産業育成課)	予算額			5,000	5,000	活動結果 ・2021年度の補助金活用実績は2件となり、市内事業者のITツール導入及びIT人材の確保・育成に繋がりましたが、本補助金の情報発信の方法を工夫し、IT化の有用性について普及啓発活動も併せて行うことで、更なる活用を目指します。	成果	○	
	決算額			1,435			R5 方向性	維持	
	特定財源			0					
	一般財源			1,435					
⑭ AI・IoT・RPA等先進技術導入検討事業 (総務部 情報システム課)	予算額	386	10,394	16,062	13,065	活動結果 ・市内の12業務にRPAの導入を行ったほか、AIを活用した音声認識議事録作成支援システムやAI-OCR(文字認識技術)の導入を行うなど、先進技術導入による市内の業務効率化に向けた取組を加速化させることができました。	成果	○	
	決算額	378	9,242	11,825			R5 方向性	維持	
	特定財源	0	0	0					
	一般財源	378	9,242	11,825					
計画事業合計 (計画事業の総合評価)		予算額	904,045	1,517,437	2,073,651	1,140,141			
		決算額	769,100	1,480,225	2,039,027	0			
		特定財源	142,976	214,758	337,325	0			
		一般財源	626,124	1,265,467	1,701,702	0			